

幕末期の「見立番付」

梅 津 保 一

一 はじめに

「民は之に由らしむべし、之を知らしむべからず」。江戸時代、民衆はただ従わせればよく、理由や意図を説明する必要はないとしていた。そのため民衆が接する情報は、幕藩領主からの触や達のほかは、自分たちの住む村や隣り近所の出来事に関するものにすぎなかった、と考えられている。しかし、旧家に残る古文書の中には多くの風説書が見い出せるし、書状・日記・講帳などに遠隔地の相場や政治的・社会的諸事件を記していることが少なくない。江戸時代の民衆も積極的にさまざまな情報収集をおこなっていたことに、驚かされる。もちろん情報の収集や伝播には地域や階層などによる差異があったことはいうまでもない。

江戸時代の人びとが、最新の情報を得る方法として求めたものに、瓦版と番付がある。瓦版は、早くニュースを知らせるこ

とを売り物とした一枚摺りの木版で、仇討ち・大火・地震など、リアルな絵と大げさな文章で人びとを興奮させた。

番付は、十七世紀中ごろに初めて作成された芝居（歌舞伎・人形浄瑠璃）などの興行参加者を列記した興行の案内・宣伝用刷物である。のちには勧進相撲興行で力士の格付けなどを紹介する一枚摺りの独特の相撲番付が作成された。番付とは主として「順番付」の意である。順位を決めることが可能な者は、興行参加者の全員を統轄できる者である。よって番付の発行者は、相撲は勧進元であり、芝居は座本（元）となる。

江戸の勧進相撲は、寛永元年（一六二四）に四谷塩町で晴天六日興行されたのがはじまりとされている。その後、禁令も出されたが、貞享元年（一六八四）に雷権太夫らが寺社奉行本多忠英へ、深川新開地繁昌を名目として勧進相撲を願い出て許され、深川八幡境内で晴天八日の興行をおこなった。これ以降は、毎年、寺社奉行所に出願して許可を得て興行した。番付の中央

上に大きな字で「蒙御免」とあるのは、寺社奉行の「御免を蒙った」、つまり免許を受けたという意味である。

今日のような縦長一枚の相撲番付は、宝暦七年（一七五七）

江戸相撲ではじめて採用されたものである。これは、東西の比較と序列が一目でわかる便利なものであった。相撲番付に見られる肉太文字は、寛政元年（一七八七）から二年頃に定着したもので、根岸流と呼ばれている。それは根岸治右衛門の番付が、その後固定した相撲番付の書体となったので、日本相撲協会などがそう名づけているからだという。

二 見立番付

十八世紀から十九世紀にかけて、相撲以外のさまざまなものを番付化して比べる知的な遊びが流行した。物の優劣、大小などを比べて序列を示すために相撲番付の見立て、つまり相撲番付の形式を借り、見立番付と呼ばれた。見立番付は役所から免許を受けて発行しているわけではないので、「蒙御免」の文字はない。それぞれの見立番付の中央上に大きく題材にふさわしいタイトルや「為御覧」と書いてあるものが比較的多い。

見立番付は、表紙や見返しの必要な書籍と違って一枚摺りのため、原稿から版下を作るのも製版も印刷も簡単である。江戸時代の浮世絵や書籍・地誌などの精巧な印刷に比べると、見立番付は彫り、摺りともかなり雑なのが多いから、素人でも作っ

て作れないことはない。特別な大物や特殊な存在で序列に入れない場合は、相撲番付の形式を踏んでいるので、行司・世話人・勧進元・差添にして上手に逃げる。

番付である以上、序列を示すものが圧倒的に多いのは当然である。読者の関心が強いと思われる事物を材料として、さまざまな見立番付が作成された。高山や大河川などの地誌的な番付はもちろん、民衆の旅が盛んになると、名所旧跡、神社・仏閣の参詣地や温泉地、遊所、産物などを全国的な視野で序列をつけるようになった。

見立番付の「見立」について、西田長男は、『見立て』の民族論理―折口信夫博士の偉大さ』（『国学院雑誌』、一九六八・一一・一二）で、折口信夫「神道に現れた民族論理」（『折口信夫全集』第三巻）の見解にヒントを得て、次のように説明している。たとえば「天の御柱をみたる」というとき、それは現実には柱をたてるのではなく、あるものを柱に見立てて祝福するといふのだから、見立番付というのも、宮の齋柱にかけた意味をもっていたのではなからうか、と。

見立番付などどのようにして売られたのだろうか。「お祭り番付」については、稲垣史生編『三田村鳶魚江戸生活事典』（一九六二）に「番附売は手拭で頬冠りをして、小風呂敷を背負い、尻を端折って盲編の股引、草鞋ばきという拵え、『お祭番附、山王様御祭礼番附』と美声で呼売りをしたものである」

幕末期の「見立番付」

とある。

三 幕末期の見立番付にみる出羽国

出羽国村山郡沢渡村（現東根市大字泉郷）菅原與左衛門家文書に袋入れの「所々芝居番附、山かたかきりもの絵、外二いろいろ番附、此外ニ所々まつり番附、文政十丁亥八月六日拵之、最上沢渡菅原與左衛門」がある。この袋の中の一つに、幕末期の見立番付『梅の壽 三編』（たて一七・五センチメートル、よこ一一・一センチメートル）という小冊子がある。

表紙にはタイトル「梅の壽 三編」を欄干に大きく書き、富



図1

士山図に江戸中期の俳人山口素堂（一六四二～一七一六）の句「眼に青葉 山ほととぎす はつかつを」が添えてある。仮に目次を付けると、次のようになる。

- (1) 源平武者競（すもう）
- (2) 太功記勇士見立相撲
- (3) 大日本名山高峰見立相撲
- (4) 大日本國々名高大川角力
- (5) 諸國温泉功能鑑
- (6) 大日本國名橋見立相撲
- (7) 常盤樹（まつ） 花王（さくら） 見立角力（天保十一子之十一月改正新版）
- (8) 大日本神社佛閣参詣所角力（天保十一年）
- (9) 大日本名所舊跡見立相撲（天保八年）
- (10) 大日本産物相撲
- (11) 大日本神事見立角力
- (12) 歌舞妓狂言外題見立角力
- (13) 大日本持丸長者鑑（嘉永四亥春改正）
- (14) 古刀 名 釵 鑑
- (15) 最上 新 刀 競
- (16) 日本 當時書家競（嘉永四年正月新版）
- (17) 古今 名 画 競（嘉永四年正月新版）
- (18) 海内正風俳家鏡

(19) 文字書ちがひ見立

本稿では、出羽国の記事が載っている(3)(4)(5)(9)(10)(13)(18)の「見立番付」を紹介してみよう。

『大日本名山高峯見立相撲』

日本は山国である。山地が国土の四分の三以上を占めている。したがって、どこからでも遠くに山々の稜線を望むことができる。全国いたるところに山脈が横たわり、険しい山がそびえる。しかも、それらの山々は古くから神仏の在所として崇拜されたのである。

この番付は、上に右横書きで『大日本名山高峯見立相撲』とある。「見立相撲」というだけあって意識的に相撲番付の形に近づけている。相撲番付の「蒙御免」の部分が「爲御覧」になっている。

行司は、真ん中に大きく「紀州 高野山」、右に「伊勢 朝熊嶽」、左に「近江 石山」とある。「紀州 高野山」は、和歌山県北東部にある、標高千メートル前後の山に囲まれた真言宗の霊地。弘仁七年(八一六)空海が自らの入定地として下賜を受け、のち真言宗の総本山金剛峯寺を創建。高野山は独立した一座の山ではなく、山地全体の名前である。

「伊勢 朝熊嶽」は、朝熊山ともいう三重県伊勢市の東部にある山。標高五五五メートル。頂上に金剛証寺、麓に朝熊神社

がある。「近江 石山」は、滋賀県大津市琵琶湖南岸の地名で、真言宗石山寺と近江八景の「石山の秋月」で有名な勝地。石山という地名はあるが、石山という名の独立した山はない。

世話人には峠をあてている。真ん中の左右に大きな字で「箱根山」「和田峠」とあり、右端が「信州 碓氷(氷)峠」、左端が「越後 三國峠」になっている。箱根山は伊豆半島の基部にあり、神奈川・静岡両県にまたがる三重式の火山。最高峰は中央火口丘の一つ、神山で標高一四三八メートル。箱根山中を通ずる箱根路八里は東海道きつての難所であり、「箱根の山は天下の険」と歌われた。和田峠は、長野県小県郡と諏訪郡との境にある峠。中山道が通る。標高一五三一メートル。三國峠は、群馬・新潟県境の三國山脈にかかる峠。標高二二四四メートル。碓氷峠は、群馬県碓氷郡と長野県北佐久郡との境にある峠。中山道の險路。旧道に沿う峠は標高一二〇〇メートル、新道に沿う峠は標高九五八メートル。鳴くべ鳴かずの峠ともいう。

頭取は山岳信仰に縁の深い四座の山、右から「讃岐 象頭山」「信州 温嶽」「越加 白山」「常陸 筑波山」が同格で並んでいる。象頭山は香川県仲多度郡にある山で、琴平山ともいう。中腹に金刀比羅宮がある。温嶽は、オンタケつまり御岳のこと、長野・岐阜両県にまたがる活火山。標高三〇六七メートル。一九七九年に史上初めて噴火。頂上に御岳神社があり、古来、修験道で屈指の霊峰。白山が越加つまり越前と加賀の間にある

大日本名山高峰見立相撲									
西					東				
前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭
岩金	五有	大相	大温	吾開	地忍	七妙	黒萬	月金	立浅
國剛	臺明	仙島	峯泉	峯峯	藏居	面香	髮代	峯	間海
山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
爲御覽					爲御覽				
司行					司行				
石高朝					石高朝				
山野熊					山野熊				
人話世					人話世				
和箱確					和箱確				
田根井					田根井				
峠峠山峠					峠峠山峠				
取頭					取頭				
白温象					白温象				
波山嶽					波山嶽				
差湊					差湊				
大坂					大坂				
天保山					天保山				
富山					富山				

図2 『大日本名山高峰見立相撲』

というのは間違いで、石川・岐阜両県にまたがる成層火山。主峰の御前峰は標高二七〇二メートル。富士山・立山と共に日本三霊山の一つ。筑波山は筑波嶺（つくばね）ともいい、茨城県南西部にある山。標高八七六メートル。峰は二つに分れ西を男体、東を女体という。「西の富士、東の筑波」と称せられ、風土記や万葉集で名高く、古来の歌枕。農業神として信仰登山が盛んだった。筑波山神社がある。

勸進元は「三国無双 駿河 富士山」。三国無双とは、日本・唐土・天竺を通じて並ぶものがないこと。富士山は、静岡・山梨両県の境にそびえる日本第一の高山。富士火山帯にある典型的な円錐状成層火山で、美しい裾野を引き、頂上には深さ二二〇メートルほどの火口があり、火口壁上では剣ヶ峰が最も高く三七七六メートル。史上たびたび噴火し、宝永四年（一七〇七）爆裂して宝永山を南西中腹につくってから静止。立山・白山と共に日本三霊山の一つ。山頂に富士権現社（祭神は浅間大神、木花開耶姫命）がある。芙蓉峰は富士山の雅称。

差添人は「大坂 天保山」。大阪市港区淀川の下流安治川の河口の左岸にある小丘。標高一四・五メートルの人工の小山である。山として認められているうちではもっとも低いという。天保二年（一八三二）に、安治川をさらった時の土砂を積み高灯籠を設けて河口の目標とした。「御仁恵海中御築立諸国回船目印山」というのは、「幕府が海の中に築いて下さった諸国回

船の目印山」という意味である。

東の方

（一段目）

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 大関「出羽 烏海山」 | ② 関脇「信州 浅間山」 |
| ③ 小結「越中 立山」 | ④ 前頭「甲州 金峯山」 |
| ⑤ 前頭「出羽 月山」 | ⑥ 前頭「奥州 萬代山」 |
| ⑦ 前頭「下野 黒髪山」 | ⑧ 前頭「越後 妙香山」 |
| ⑨ 前頭「甲州 七面山」 | ⑩ 前頭「奥州 恐居山」 |
| ⑪ 前頭「甲州 地藏嶽」 | |

（二段目）

- | | |
|-------------|-------------|
| ① 「シナノ 姥捨山」 | ② 「デハ 羽黒山」 |
| ③ 「上シウ 赤城山」 | ④ 「サド 金山」 |
| ⑤ 「アイズ 飯出山」 | ⑥ 「エチゴ 八彦山」 |
| ⑦ 「サガミ 大山」 | ⑧ 「上シウ 吾妻山」 |
| ⑨ 「上シウ 白根山」 | ⑩ 「サカミ 駒ヶ嶽」 |
| ⑪ 「シナノ 戸隠山」 | ⑫ 「カヒ 鳳凰山」 |
| ⑬ 「ムツ 竜前嶽」 | ⑭ 「ムツ 半田山」 |
| ⑮ 「ムツ 勝田山」 | ⑯ 「上シウ 榛名山」 |
| ⑰ 「カヒ 天目山」 | ⑱ 「下ツケ 十三峠」 |
- （三段目）
- | | |
|---------------|------------|
| ① 「シナノ 八ツケたけ」 | ② 「ムツ 岩城山」 |
|---------------|------------|

幕末期の「見立番付」

(四段目)	③「ムツ	小ふし山」	④「ヒタチ	かばさん」
	⑤「ムツ	金花山」	⑥「ムツ	ひめ神山」
	⑦「デハ	くらがり峠」	⑧「デハ	もり山」
	⑨「上シウ	めうぎ山」	⑩「カヒ	さく子峠」
	⑪「ムサシ	小仏とうけ」	⑫「カガ	杉のせ山」
	⑬「ヒタチ	あしを山」	⑭「エチゴ	あらち山」
	⑮「三カハ	ほうらいじ山」	⑯「三カハ	からくり山」
	⑰「アフミ	しつかたけ」	⑱「ムツ	嶽やま」
	①「アフミ	みかミ山」	②「イセ	布引山」
	③「ムツ	たね市山」	④「ムツ	ゆのたけ山」
	⑤「デハ	もとやま」	⑥「デハ	もりやま」
	⑦「アフミ	吾し山」	⑧「ミノ	三とう山」
	⑨「ミカハ	ひうち山」	⑩「遠江	あきばさん」
(五段目)	⑪「下ツケ	庚申山」	⑫「デワ	しんざん」
	⑬「ムツ	あかへたけ」	⑭「ムツ	やくきかだけ」
	⑮「カヒ	つもうたけ」	⑯「ミカハ	さなけ山」
	⑰「ムツ	日出山」	⑱「ヒタチ	金沢山」
	⑲「ヒタチ	まゆみ山」	⑳「サト	大板山」
	㉑「上シウ	うりう山」	㉒「サカミ	あしがら山」
	㉓「テハ	すゐしやう山」	㉔「アフミ	ひらのたけ」

①「デワ 風山」 ②「ミカハ ほんくう山」
 ③「ミカハ いしまき山」 ④「下ツケ 岩ふね山」
 ⑤「下ツケ 大平山」 ⑥「エン州 みとりやま」
 ⑦「カヅサ かのふさん」 ⑧「房州 清すみ山」
 ⑨「サト 金北山」 ⑩「ムサシ ちちぶ山」
 ⑪「エン州 かうめう山」 ⑫「シナノ きやうたい山」
 ⑬「ムツ さらい山」 ⑭「ムツ 国見山」
 ⑮「上シウ はな山」 ⑯「スルガ うつの山」
 ⑰「イツ あまき山」 ⑱「アフミ 車かへし山」
 ⑲「イセ すりはり山」 ⑳「イセ すずかやま」
 ㉑「房州 あふ山」 ㉒「イツ ハす山」
 ㉓「下ツケ いづる山」 ㉔「房州 こはく山」

東之方

一段目①大関「出羽 鳥海山」は、山形・秋田県境に位置する二重式成層火山。山頂は旧火山の筈ヶ岳（一六三三メートル）などと新火山の新山（二二三六メートル）とから成る。中央火山口丘は鈍円錐形で、火口には鳥海湖を形成。出羽富士。

一段目②関脇「信州 浅間山」は、長野・群馬両県にまたがる三重式の活火山。標高二五六八メートル。しばしば噴火、天明三年（一七八三）には大爆発し死者約二千人を出した。（歌枕）。

一段目③小結「越中 立山」は、富山県の南東部、北アルプ

スの北西端に連なる連峰。標高三〇〇三メートルの雄山を中心とし、北に大汝山（三〇一五メートル）、南に浄土山が屹立。劔岳・薬師岳などと立山連峰をなす。雄山山頂には雄山神社がある。富士山・白山と共に日本三霊山の一つ。古名、たちやま。

一段目⑤前頭「出羽 月山」は、山形県中部にある楯状火山。標高一九八四メートル。頂上に月山神社（祭神は月読命）の社殿がある。湯殿山・羽黒山と共に出羽三山の一つ。犂牛（くろし）山。

二段目②「デハ 羽黒山」は、山形県庄内平野南東にある山。月山・湯殿山と共に出羽三山の一つ。山頂に出羽神社があり、古来修験者の登山が多い。標高四一四メートル。

二段目⑤「アイズ 飯出山」は山形・新潟・福島の県境の飯豊山地であり、会津に限定すべきでない。主峰は飯豊山（二一〇五メートル）、最高峰は大日岳（二二一八メートル）。白鳳期に智通が開いたとも、また九世紀に空海が、十一世紀に南海らが開いたともいう。飯豊山頃に飯豊神社五社権現がまつられている。

三段目⑧「デハ もり山」は、山形県鶴岡市の摩耶山地支脈の北端にある小丘陵。標高一二一・五メートル。北西麓に下清水・中清水・上清水の集落がある。平野部から眺めると三つの峰があることから三森山ともよばれる。当山は死者の魂の集まる霊地「もりの山」とされ、信仰圏は庄内だけでなく新潟・秋

田両県にもおよんでいたという。

四段目⑬「デハ すゐしやう山」は、山形県天童市北東部、東根市との境界に位置する、標高六六七・九メートルの水晶山。山頂に大和神社（現水晶山神社）が祀られ、また慈覚大師が大和寺を建立して別当寺としたという伝承がある。

三段目⑦「デハ くらがり峠」、四段目⑤「デハ もとやま」、四段目⑥「デハ もり山」、四段目⑫「デワ しんざん」は不明。

西之方

（一段目）

- | | |
|-------------|-------------|
| ①大関「肥後 阿蘇嶽」 | ②関脇「薩摩 開門嶽」 |
| ③小結「長州 吾磐嶽」 | ④前頭「肥前 温泉嶽」 |
| ⑤前頭「大和 大峯山」 | ⑥前頭「日向 桐島山」 |
| ⑦前頭「伯州 大仙山」 | ⑧前頭「対馬 有明山」 |
| ⑨前頭「土佐 五臺山」 | ⑩前頭「河内 金剛山」 |
| ⑪前頭「防州 岩國山」 | |

（二段目）

- | | |
|------------|------------|
| ①「山シロ 比叡山」 | ②「ヤマト 三笠山」 |
| ③「アフミ 伊吹山」 | ④「イハミ 銀山」 |
| ⑤「サヌキ 象頭山」 | ⑥「タンハ 大江山」 |
| ⑦「サヌキ 八峯山」 | ⑧「ブゼン 彦山」 |

幕末期の「見立番付」

⑨「ハリマ 書写山」	⑩「カハチ 飯盛山」	⑬「キシウ セやま」	⑭「イツモ わに渚山」
⑪「ハリマ 厩山」	⑫「ブゼン 釋迦ヶ嶽」	⑮「イツモ セきの山」	⑯「カハチ 二上ただけ」
⑬「紀州 熊野山」	⑭「紀州 般若山」	⑰「カハチ みとりこ山」	⑱「ヒゼン つね山」
⑮「紀州 八鬼山」	⑯「ツシマ 石上山」	⑲「ツノ国 ありま山」	⑳「アハチ ミなせ山」
⑰「イヨ 閑上ヶ嶽」		㉑「ヒゼン ひれふか山」	㉒「イヨ あかはた山」
(三段目)			
①「サヌキ 大星山」	②「山シロ くらま山」	①「ヤマト いこま山」	②「大スミ あをば山」
③「イハミ 三平山」	④「ブンゴ ゆうぶか嶽」	③「チクゼン あししろ山」	④「ツノ国 うぶと山」
⑤「イナバ 舟上山」	⑥「イキ うをくり山」	⑤「アハ まゆ山」	⑥「チクゼン うまど山」
⑦「ワカサ こせ山」	⑧「サヌキ 河津山」	⑦「イヨ 小ふじ山」	⑧「トサ やはず山」
⑨「ヤマト よしの山」	⑩「ヤマト たふの峯」	⑨「タンバ むらくも山」	⑩「トサ しらが山」
⑪「ハリマ あたこ山」	⑫「ハリマ 國かけ山」	⑪「タンゴ くらはし山」	⑫「タンバ 千とせ山」
⑬「キシウ ほうらい山」	⑭「セツツ てつかいか峯」	⑬「タンバ いなむら山」	⑭「ホウキ あふやま」
⑮「カハチ 志貴山」	⑯「タンバ 小小じ山」	⑮「ビツ中 岩根山」	⑯「ビンゴ しとミ山」
⑰「キシウ ならやま」	⑱「ハリマ 弁天山」	⑰「ヤマト あななき山」	⑱「イハミ わたりの山」
(四段目)			
①「京 あたご山」	②「チクゼン てんばい山」	⑲「ハリマ ふなきか山」	⑲「ナガト おもかけ山」
③「イハミ 高角山」	④「アキ 弥山」	⑲「サガミ かうらい山」	⑲「下ツケ 外やま」
⑤「カハチ いこま山」	⑥「サヌキ 白みね山」	⑲「ムサシ ふこう山」	
⑦「カハチ いわ山」	⑧「ヒゼン ゆうが山」		
⑨「山シロ てんわう山」	⑩「山シロ 小ひゑ山」		
⑪「ヤマト 三わの山」	⑫「ヤマト たつた山」		
西之方			
一段目①大関「肥後 阿蘇嶽」は、熊本県北東部、外輪山と			

数個の中央火口丘（阿蘇五岳という）から成る活火山。外輪山に囲まれた楕円形陥没カルデラは世界最大級。最高峰の高岳は標高一五九二メートル。

一段目②関脇「薩摩 開聞岳」は開聞岳のことで、鹿児島県の薩摩半島南東端に位置する二重式成層火山。標高九二二メートル。鹿児島湾に入る船の目標として、古くから「海門の山」として崇められた。薩摩富士。

一段目③小結「長州 吾磐嶽」は、山口県萩市の東にある標高五五一メートルの碁盤ヶ岳。

一段目④前頭「肥前 温泉嶽」は雲仙岳のことで、長崎県島原半島にある火山群の総称。標高一四八六メートルの普賢岳を主峰とする。

一段目⑤前頭「大和 大峯山」は、奈良県吉野郡十津川の東の山脈。最高峰は八剣山（仏経ヶ岳）一九一五メートル。重畳して和歌山県熊野に及ぶ。昔は、金峰山の頂上と考えられた。修験道の根本霊場。

一段目⑥前頭「日向 桐島山」は霧島山のことで、鹿児島・宮崎両県にまたがる、霧島火山帯中の火山群。高千穂峰（東霧島）は標高一五七四メートル、韓国（からくに）岳（西霧島）は標高一七〇〇メートル。

一段目⑦前頭「伯州 大仙山」は大山（だいせん）のことで、島根県西部にある複式火山。標高一七二九メートル。大神岳と

もいう。伯耆富士。

『大日本國々名高大川角力』

山があれば必然的に川が生まれる。日本は山国だけに、河川の多い国である。したがって、水にはことのほか恵まれている。川が国土の隅々までめぐっているが、国土が狭いため、多くの河川は短くて急勾配である。

上に右横書きで『大日本國々名高大川角力』とある。「蒙御免」の部分が「御免」になっている。

行司は、「江戸 宮戸川」「京 加茂川」「江戸 両國川」が同格で並んでいる。その下に「常州 美奈の川」「摂州 湊川」「山城 高瀬川」「奥州 衣川」「常州 逢物川」が並んでいる。「江戸 宮戸川」は、荒川の部分称である。「京 加茂川」は、京都市街東部を貫流する川。北区雲ヶ畑の山間に発源、高野川を合せて南流し（その合流点から下流を鴨川と書く）、桂川に合流する。（歌枕）。「江戸 両國川」は、東京都墨田区両国あたりの隅田川の部分称である。両国は、隅田川が古くは武蔵・下総両国であったための称である。「常州 美奈の川」は男女川で、茨城県筑波山に発源、南流する溪流。（歌枕）。「摂州 湊川」は、神戸市の中央部を流れる川。六甲山地に発源、南流して市水道の烏原貯水池となし、余水は荻藻島の西で大阪湾に注ぐ。「山城 高瀬川」は、京都市内にある運河。鴨川から取



図3 『大日本國々名高大川角力』

水し、伏見を過ぎ淀川に通ずる。長さ十数キロメートル。慶長十六年（一六一一）角倉了以が開削。高瀬舟を運行したところから名づけた。「奥州 衣川」は、岩手県南部の川。平泉町の北部で北上川に注ぐ。下流一帯は源義経最後の地と伝える衣川館（高館）など阿倍氏・奥州藤原氏の史跡が多い。

頭取は力士の取締りに当たる役だが、真ん中に大きく「大坂安治川」、右に「大坂 道頓堀川」「木津川」、左に「サカミ 大和川」「大坂 堂島川」とある。「大坂 安治川」は、淀川下流の分流。大阪市堂島の南から南西流して大阪湾に入る。貞享年間（一六八四～八八）河村瑞賢が開削。河口部南側に天保山がある。「大坂 道頓堀川」は安井道頓が開削した川。大阪市中心区にある市中第一の盛場である道頓堀は、道頓堀川の南、東は日本橋詰から西は戎（えびす）橋筋にいたる。「大坂 木津川」は、淀川下流の分流の一つ。大阪市西区で淀川分流の土佐堀川から分れ、南西流して大阪湾に注ぐ。

世話人には歌枕の「陸奥 玉川」「武蔵 玉川」「山城 玉川」「摂津 玉川」「近江 玉川」「紀伊 玉川」の六玉川をあてている。「陸奥 玉川」は、宮城県塩竈・多賀城両市を流れる川。野田の玉川。千鳥の玉川。「武蔵 玉川」は、東京都の玉川。調布の玉川。「山城 玉川」は、京都府綴喜郡井手町の井手の玉川。「摂津 玉川」は、大阪府高槻市南部玉川の里。「近江 玉川」は、滋賀県草津市南部の野路の玉川。萩の玉川。「紀伊

玉川」は、和歌山県高野山奥院大師廟畔の細流で高野の玉川。勸進元は「大坂 天満大川」。大坂の母なる川「淀川」は市の中に入ると、人びとは親しみをこめて大川と呼んだ。「天満大川」は大坂の三大市場の一つ天満の青物市場沿いの大川である。差添人の「江戸 隅田川」は、古くは墨田川・角田河とも書いた。東京都市街地東部を流れて東京湾に注ぐ川。もと荒川の下流。流域には著名な橋が多く架かる。東岸の隅田堤（墨堤）は、古来桜の名所。今、隅田公園がある。大川ともいう。

東之方

（一段目）

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 大関「下総 利根川」 | ② 関脇「信濃川川上 木曾川」 |
| ③ 小結「駿州 富士川」 | ④ 前頭「出羽 最上川」 |
| ⑤ 前頭「越中富山 神通川」 | ⑥ 前頭「山城 淀川」 |
| ⑦ 前頭「江戸 江戸川」 | ⑧ 前頭「江戸 神田川」 |
| ⑨ 前頭「武州 戸田川」 | ⑩ 前頭「越前福井 大川」 |
| ⑪ 前頭「相州海内 相模川」 | ⑫ 前頭「武州 荒川」 |
| ⑬ 前頭「出羽 野代川」 | |

（二段目）

- | | |
|------------|------------|
| ① 「奥州 藤崎川」 | ② 「信州 筑摩川」 |
| ③ 「武州 入間川」 | ④ 「越後 津川」 |
| ⑤ 「上州 烏川」 | ⑥ 「武州 六郷川」 |

幕末期の「見立番付」

⑦「筑州 馬入川」	⑧「南部 六戸川」
⑨「信州 犀川」	⑩「上州 神名川」
⑪「常州 那可川」	⑫「加賀 手取川」
⑬「摂ノ国 神崎川」	⑭「出羽 戸嶋川」
⑮「南部 和加川」	⑯「江戸 小那木川」
(三段目)	
①「大坂 土佐ほり川」	②「江戸 中川」
③「備中 川辺川」	④「江戸 堅川」
⑤「エチコ 泉川」	⑥「仙タイ 名取川」
⑦「イツ 鶴野川」	⑧「武州 新戸根川」
⑨「南部 長せ川」	⑩「スルガ 沖津川」
⑪「エチコ 黒川」	⑫「デワ 須川」
⑬「オウ州 市川」	⑭「エチコ 五十嵐川」
⑮「カツサ 志津屑川」	⑯「大坂 東よこ堀川」
(四段目)	
①「相州 手おり川」	②「ハリマ 市川」
③「おう州 後せ川」	④「デハ 臈気川」
⑤「越中 中田川」	⑥「アカシ 大治川」
⑦「越セン 白亀め川」	⑧「下野 沖川」
⑨「ビゼン ふじ川」	⑩「ムツ 厨川」
⑪「エチコ おし上ヶ川」	⑫「水戸 石上川」
⑬「越セン ひの川」	⑭「オウ州 杖川」

⑮「仙タイ 片せ川」	⑯「ヒタチ 泉川」
⑰「エチコ 枯歌川」	⑱「ツノ国 池田川」
(五段目)	
①「岩キ 釜田川」	②「相州 田むら川」
③「下ツケ 芥屑川」	④「オウ州 前川」
⑤「オウ州 植田川」	⑥「ヒタチ 小かい川」
⑦「下ツケ 早つき川」	⑧「デワ 古木川」
⑨「エチコ やまた川」	⑩「デワ 布さき川」
⑪「エチコ ひめ川」	⑫「越中 くるぐる川」
⑬「越中 三つは川」	⑭「エチコ わなつ川」
⑮「上州 須川」	⑯「デハ 雪川」
⑰「オウ州 くめ川」	⑱「カツサ 五井ノ川」
東之方	
一段目①大関「下総 利根川」は、(トネはアイヌ語「長い」の意からか)関東平野を貫流する大川。一名、坂東太郎。新潟・長野・群馬三県の県界の三国山脈北部丹後山付近に源を発し、南東へ流れ、銚子市で太平洋に注ぐ。流域は群馬・栃木・埼玉・茨城・千葉の五県にまたがり、一万六八四〇平方キロメートルで日本最大。長さ三二二キロメートル。	
一段目②関脇「信濃川川上 木曾川」は、長野県鉢盛山に発源、長野・岐阜・愛知・三重の四県を流れる川。王滝川・飛騨川などの支流を合し伊勢湾に注ぐ。長さ三二七キロメートル。	

信濃川上とあるのは誤り。信濃川は、長野・新潟両県にまたがる川。本流千曲川は秩父山地に発し、最大の支流犀川は飛騨山脈に発し、長野市で合流した後、北東に流れ新潟県に入って信濃川と称し、魚野川を合わせて新潟市で日本海に注ぐ。わが国第一の長流で、長さ三六七キロメートル。

一段目③小結「駿州・富士川」は、赤石山脈に発する釜無川と秩父山地に発する笛吹川が合して南流し、山梨・静岡両県の中央部を貫流して駿河湾に注ぐ川。最上川・球磨川と共に日本三急流の一つ。長さ一二八キロメートル。

一段目④前頭「出羽 最上川」は、山形・福島両県境の西吾妻山（標高二〇三五メートル）に源を発し、米沢盆地と山形盆地を北上し、新庄盆地に入り、流路を北西に変え、庄内平野を貫流して酒田市で日本海に入る。長さ二二九キロメートル。富士川・球磨川とともに日本三急流の一つ。流域は、山形市をはじめ十二市二十一町三村からなり、流域人口は約百八万人で、山形県人口の約八割を占めている。最上川のような大きな川（全国第七位）で、一つの県が一本の河川流域に含まれる例は全国でも珍しく、一県一河川の典型とされている。最上川は鉄道の敷かれるまで、物資輸送の大動脈であった。古くから舟運の要路として利用され、米・紅花・青苔などを上方に送り出し、上方から生活物資や文化がもたらされた。最上川は、山形県民の「母なる河」として、山形県の政治・経済・文化の基盤をな

していた。

一段目⑤前頭「越中富山 神通川」は、富山県中央部を流れる川。岐阜県飛騨高地に発源、富山平野に下り富山湾に注ぐ。河谷を通ずる道路と鉄道は、岐阜・富山間の主要な交通線。長さ一二〇キロメートル。

一段目⑥前頭「山城 淀川」は、琵琶湖に発源、京都盆地に出で、盆地西端で木津川・桂川を合わせ、大阪平野を北東から南西に流れて大阪湾に注ぐ川。長さ七五キロメートル。上流を瀬田川、宇治市から淀までを宇治川という。

一段目⑦前頭「江戸 江戸川」は、①利根川の分流。千葉県関宿町付近から南流、千葉県・東京都の境を流れ東京湾に注ぐ。長さ六〇キロメートル。②隅田川の支流神田川の、文京区関口から千代田区飯田橋辺にかけての称呼。

一段目⑧前頭「江戸 神田川」は、神田上水。江戸初期に設けられた江戸の上水。井ノ頭池から小石川関口・水道橋を経て、神田・日本橋・京橋に給水して飲料に供した。明治三十六年（一九〇三）廃止。

一段目⑧前頭「武州 戸田川」は、埼玉県南東部、荒川左岸の戸田市付近の荒川をいう。中山道の「戸田の渡し」があった。

一段目⑨前頭「越前福井 大川」は、福井県福井市を流れる足羽川の異称。

一段目⑩前頭「相州海内 相模川」は、神奈川県の中部を流

れる川。源を山梨県山中湖に発し、上流を桂川、相模にはいつて相模川といい、下流を馬入川という。長さ一〇九キロメートル。

一段目⑪前頭「武州 荒川」は、関東平野を流れる川。奥秩父の西部、甲式信岳に発し、秩父盆地を流れて関東平野に出て、埼玉県の中部を貫き、下流は荒川放水路・隅田川となって東京湾に注ぐ。長さ一六九キロメートル。

一段目⑫前頭「出羽 野代川」は、秋田県北部の米代川。四角岳に発源、能代市で日本海に注ぐ。長さ一三六キロメートル。

三段目⑬「デワ 須川」は、山形県最上川水系の支流。上山市萱平地区の舟引山に源を発し、途中で蔵王川、酢川、白川（馬見ヶ崎川）、立谷川などの支流を合わせながら天童市寺津地内で最上川に合流する。蔵王川合流点から上流の水域が、かつて宮川と呼ばれていた。長さ四五キロメートル。その名の示すように古くから酸性毒水として知られ、流域の住民はたえずこれとの闘争を余儀なくされてきた。

四段目⑭「デハ 臈気川」は、山形県最上川の一支流。奥羽山系の尾花沢市と東根市との境界をなす白森（標高二二五四メートル）および東根市の黒伏山（標高一二二七メートル）に源を発し、途中千鳥川・前田川などの小支流を合わせながら北流し、延沢地区東方の取上付近で西に向きを変え、北村山郡大石田町大石田南部で最上川と合流する。長さは一五・八キロメートル。

右岸の延沢地内丘陵上には最上氏の城将野辺沢氏によって築かれた延沢城跡（国指定史跡）がある。

二段目⑭「出羽 戸嶋川」、五段目⑧「デワ 古木川」、五段目⑩「デワ 布さき川」五段目⑯「テハ 雪川」は不明。

西の方

（二段目）

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 大関「遠江 大井川」 | ② 関脇「仙タイ 大隈川」 |
| ③ 小結「筑後 筑後川」 | ④ 前頭「遠江 天龍川」 |
| ⑤ 前頭「和州 吉野川」 | ⑥ 前頭「三州矢矧 松葉川」 |
| ⑦ 前頭「山城 宇治川」 | ⑧ 前頭「美の 洲之股川」 |
| ⑨ 前頭「防州坊国 遠崎川」 | ⑩ 前頭「三州吉田 豊川」 |
| ⑪ 前頭「紀州 紀伊川」 | ⑫ 前頭「肥後 八代川」 |
| ⑬ 前頭「防州 矢地川」 | |

（二段目）

- | | |
|------------|-------------|
| ① 「石見 守屋川」 | ② 「日向 ニツ館川」 |
| ③ 「美ノ 呂久川」 | ④ 「備前 吉井川」 |
| ⑤ 「美ノ 河戸川」 | ⑥ 「美ノ 尾越川」 |
| ⑦ 「美ノ 太田川」 | ⑧ 「美ノ 名柄川」 |
| ⑨ 「越中 勝川」 | ⑩ 「阿波 富田川」 |
| ⑪ 「肥後 香崎川」 | ⑫ 「肥前 本庄川」 |
| ⑬ 「播州 宇根川」 | ⑭ 「摂ノ国 生田川」 |

⑮「日向 赤江川」

(三段目)

①「大坂 長堀川」

③「キ州 日高川」

⑤「防州 中津川」

⑦「アキ 大井川」

⑨「スルガ 阿部川」

⑪「下ツケ 繪川」

⑬「イツモ 小屋川」

⑮「エン州 菊川」

(四段目)

①「山シロ かつら川」

③「大和 木津川」

⑤「カハチ しん川」

⑦「ミノ 神木川」

⑨「近江 石田川」

⑪「山シロ 夢川」

⑬「ミノ 杭せ川」

⑮「近江 よこた川」

⑰「チク前 麻川」

(五段目)

①「ツノクニ 神子川」

⑯「撰ノ国 武廣川」

②「ヒゼン □の川」

④「イセ 宮川」

⑥「チクゴ 柳川」

⑧「遠江 高宮川」

⑩「近江 矢湊川」

⑫「近江 浅井川」

⑭「アキ 奴田川」

⑯「大坂 西よこ堀川」

②「ツノ国 あしや川」

④「近江 越智川」

⑥「イセ としだ川」

⑧「ツノ国 中津川」

⑩「イカ 長田川」

⑫「ワカサ 比津川」

⑭「カハチ 天の川」

⑯「ハリマ 駕た川」

⑰「イセ 泉川」

②「シナノ 妻川」

③「ミノ 園川」

⑤「近江 石無川」

⑦「キ州 紀せ川」

⑨「ヒゼン 大俊川」

⑪「ミノ 大井川」

⑬「シナノ 笈川」

⑮「チク前 赤近川」

⑰「ヒタチ 磯糸川」

④「イセ 星川」

⑥「大和 耳なし川」

⑧「キ州 きの川」

⑩「エチコ 松川」

⑫「近江 くら川」

⑭「ハリマ 少将川」

⑯「フング 青津川」

⑰「アフミ 文和川」

西之方

一段目①大関「遠江 大井川」は、静岡県中部、駿河・遠江の境を流れる川。源を赤石山脈に発し、駿河湾に注ぐ。長さ一六〇キロメートル。江戸時代には、架橋・渡船が禁じられ、旅人は必ず人足を雇って肩車または輦台で渡った。

一段目②関脇「仙タイ 大隈川」は阿武隈川で、福島県西白河郡甲子山に源を発し、郡山盆地・福島盆地を流れて宮城県に入り、太平洋に注ぐ川。長さ二二九キロメートル。

一段目③小結「筑後 筑後川」は、熊本・大分・福岡・佐賀の四県を流れる九州第一の川。熊本県阿蘇山北側に発源する大山川と、大分県九重山に発する玖珠川とを水源とし、日田盆地を経て筑紫平野を流れて有明海に注ぐ。長さ一四三キロメートル。筑紫二郎。

一段目④前頭「遠江 天龍川」は、中部地方南部を流れる川。源を長野県諏訪湖の西北端に発し、南下して静岡県西部で太平洋に注ぐ。長さ二二三キロメートル。

一段目⑤前頭「和州 吉野川」は、四国の大河。高知・愛媛両県境の石鎚山脈中に発源、高知県北部を東流、北転して徳島県に入ってその北部を東流、徳島市街の北で紀伊水道に注ぐ。長さ一九四キロメートル。四国三郎。

一段目⑥前頭「三州 矢矧 松葉川」は、愛知県のほぼ中部を流れる矢作川の異称。木曾山脈南部に発源、岡崎平野を流れて知多湾に注ぐ。長さ一一七キロメートル。

一段目⑦前頭「山城 宇治川」は、琵琶湖に発し、上流を瀬田川、宇治に入って宇治川、京都市伏見区淀付近に至って淀川と称する。網代で氷魚・鮎を捕った「宇治の網代」や宇治川の合戦で名高い。

一段目⑧前頭「美の 洲之股川」は、岐阜県南西部、濃尾平野の輪中地帯にある墨俣を流れる川。もと木曾川・長良川・揖斐川の合流点で、交通・軍事上の要地。源平合戦などしばしば戦場となる。豊臣秀吉の築いた一夜城址がある。古くは墨股川、洲俣川とも。

一段目⑨前頭「防州 坊国 遠崎川」は、不明。

一段目⑩前頭「三州 吉田 豊川」は、愛知県東部の川。長さ七七キロメートル、美濃三河高原の明神山に発し、南西流して

渥美湾に注ぐ。

一段目⑪前頭「紀州 紀伊川」は紀ノ川で、奈良・三重県境の大台ヶ原山に発源、奈良県の中央部、和歌山県の北部を西流、紀伊水道に注ぐ川。奈良県内の部分を吉野川という。上流域は吉野杉の林業地として知られる。長さ一三六キロメートル。

一段目⑫前頭「肥後 八代川」は球磨川で、熊本県南部の川。人吉盆地を流れ八代で八代海に注ぐ。長さ一一五キロメートル。富士川・最上川と共に日本三急流の一つ。

『諸國温泉功（効）能鑑』

温泉は火山活動と深い関係があり、その分布は火山帯の分布とはば一致している。火山列島の日本は、世界一の温泉国である。温泉の起源に、鹿や鶴や鷺などが傷や病気を癒していたのを見て発見されたというのが多い。人びとは、温泉にはケガや皮膚病や痛みを治す効能があるとして、「湯治」したのである。この番付は、上に右横書きで『諸國温泉功（効）能鑑』とある。相撲番付の「蒙御免」の部分が多くの見立番付のように「爲御覧」となっている。相撲番付の大関、関脇などと書いた下の部分つまり力士の出身地を書くべき位置に効能のある病気や症状が書いてある。

「爲御覧」のすぐ下には、行司が並ぶ。右から、「紀州 龍神の湯」「伊豆 熱海の湯」「上州 さわたりノ湯」「津軽 大

鰐の湯」の四湯である。「紀州 龍神の湯」は、和歌山県中部、日高川上流にある竜神温泉である。泉質は重曹泉。「伊豆 熱海の湯」は、静岡県伊豆半島の北東隅、相模湾に面する全国有数の温泉場熱海温泉。泉質は塩類泉。「上州 さわたりノ湯」は不明。「津軽 大鰐の湯」は、青森県南部、南津軽郡大鰐町にある大鰐温泉。泉質は食塩泉。十二世紀の発見と伝える。勸進元は「紀州熊野 本宮の湯」で、差添人は「同所 新宮の湯」となっているが、那智勝浦温泉である。

東之方

(一段目)

- ①大関「瘡どく三病諸病ニよし 上州草津湯」
- ②関脇「諸病ニよし 野州那須湯」
- ③小結「眼病ひつひぜんニよし 信州諏訪湯」
- ④前頭「きりきす打身ニよし 豆州湯河原湯」
- ⑤前頭「しつひぜんによし 相州足の湯」
- ⑥前頭「瘡どく諸病によし 陸奥嶽の湯」
- ⑦前頭「子なき女くわいにんする上州湯川尾湯」
- ⑧前頭「諸びやうニによし 仙臺成子湯」
- ⑨前頭「しつひぜんによし 最上高湯泉」
- ⑩前頭「うちみきりきすによし 武州小河内原湯」

(二段目)

- ①「瘡どく諸病によし 津軽嶽の湯」
- ②「諸病ニよし 相州湯元湯」
- ③「がん病ニよし 豆州小名湯」
- ④「そうどくニよし 信州波湯ノ湯」
- ⑤「諸病ニよし 會津天仁寺湯」
- ⑥「うちみ諸病ニよし 越後松ノ山湯」
- ⑦「諸病ニよし 南部恐山湯」
- ⑧「かけ症ニよし 庄内田川湯」
- ⑨「諸病ニよし 岩城湯元湯」
- ⑩「諸病ニよし 米澤赤湯ノ湯」
- ⑪「諸病ニよし 下野中禪寺梵湯」

(三段目)

- ①「しつひぜんがん病 奥州飯坂湯」
- ②「瘡どくニよし 南部鹿角湯」
- ③「がん病ニよし 相州姥子湯」
- ④「せんきニよし 豆州修善寺湯」
- ⑤「諸病ニよし 仙臺川たひ湯」
- ⑥「諸病ニよし 庄内温海湯」
- ⑦「しやくつかへ 津軽温湯ノ泉」
- ⑧「うちみせんき 米沢湯澤湯」
- ⑨「づつうしやく 豆州権現湯」
- ⑩「中風しやく 會津熱塩湯」

[illegible]

図4 『諸國温泉功（効）能鑑』

⑪「せんき寸白(すばく) 相州貴賀湯」

(四段目)

①「婦人一切ニよし 野州塩原湯」

②「せんきそうどく 庄内湯ノ濱湯」

③「諸病ニよし 津軽板箇湯」

④「諸病ニよし 信州別所湯」

⑤「そうどく 越後関ノ山湯」

⑥「うちミ中風 南部臺の湯」

⑦「諸病ニよし 伊達湯ノ村湯」

⑧「うち身かつけ 最上銀山湯」

⑨「しやくつかへ 會津瀧の湯」

⑩「せんきニよし 米沢谷沢ノ湯」

⑪「つつうニよし 南部麻水湯」

東之方

一段目①大関「瘡どく三病諸病ニよし 上州草津湯」は、群

馬県北西部、白根山東麓を占める吾妻郡の草津温泉である。瘡毒は梅毒・かさのことで、決まった方法で入浴すると効果があったという。三病とは、ハンセン病、癩癧、それに鬱病のような精神的な病気のことから、「万病に効く」というところだろう。

一段目②関脇「諸病ニよし 野州那須湯」は、栃木県北東、

那珂川上流域の那須岳(茶臼岳)の麓に広がる高原の那須温泉郷である。

一段目③小結「眼病ひつひぜんニよし 信州諏訪湯」は、長野県諏訪市にある上諏訪温泉である。ひつひぜんのヒツはしつ(湿)の江戸訛りで湿瘡のこと。ひぜんは皮癬で、いずれも皮癬ダニの寄生によっておこる皮膚病である。

一段目④前頭「きりきす打身ニよし 豆州湯河原湯」は、神奈川県南西部、箱根火山南東斜面を占める足柄下郡の有名な湯河原温泉。きりきすは切り傷。

一段目⑤前頭「しつひぜんによし 相州足の湯」は、神奈川県箱根町の芦ノ湯温泉。箱根七湯の一つ。泉質は硫黄泉。

一段目⑥前頭「瘡どく諸病によし 陸奥嶽の湯」は、福島県二本松市の市街西方九キロメートル、安達太良山東麓の高原にある岳温泉。酸性緑バン泉。

一段目⑦前頭「子なき女くわいにんする 上州湯川尾湯」。子授けの湯。

一段目⑧前頭「しつひぜんによし 仙臺成子湯」は、宮城県北西部、玉造郡にある鳴子温泉。玉造八湯の一つ。特産の鳴子こけしは有名。

一段目⑨前頭「しつひぜんによし 最上高湯泉」は、山形県山形市の蔵王温泉。もと最上高湯、蔵王高湯と呼ばれた。含硫化水素強酸性ミョウバン緑バン泉。

一段目⑩前頭「うちみきりきずによし 武州小河内原湯」は、東京都の水源として奥多摩湖になってしまった小河内にあった。今でも熱海という地名が残り、温泉神社がある。

二段目①「瘡どく諸病によし 津軽嶽の湯」は、青森県中津軽岩木町の岩木山南麓、標高四五〇メートルの高原にわく嶽温泉である。一六八〇年津軽藩主信政によって開かれたと伝える。含土類酸性硫化水素泉。

二段目②「諸病ニよし 相州湯元湯」。湯元（湯本）という地名は各地にあるが、これは神奈川県箱根町の湯本温泉で、箱根湯本として有名。

二段目⑧「かけ症ニよし 庄内田川湯」は、山形県鶴岡市の湯田川温泉である。開湯については和銅年間（七〇八～七一四）に傷ついた白鷺が湯あみしているのを里人がみつけたという伝説や、目を病んだ牛が角で地面を突いて湧出させたという伝説がある。江戸時代には庄内藩主酒井氏の保養地にもなっており、出羽三山行者のわらじぬぎの場となり、歓楽郷であった。源泉は、江戸時代に正面の湯・田の湯・字頭の湯などがあつた。泉質は含芒硝石膏泉。リューマチ性疾患・痛風および尿酸素質・創傷・高血圧症などに効用があるとされる。

二段目⑩「諸病ニよし 米澤赤湯ノ湯」は、山形県南陽市赤湯温泉である。温泉の発見については、米野与惣右衛門が空海の託宣によって掘削したという伝説や、寛治七年（一〇九三）

源義綱が出羽遠征の折に発見したという伝承、寺井の初野地付近は上が赤く水も暖かだったので、領主が浴場を開き赤湯と命名したという説などがある。泉質は含食塩塩化土類硫化水素泉。リューマチ性疾患・神経痛・運動障害・慢性湿疹などに効用があるとされる。

三段目⑥「諸病ニよし 庄内温海湯」は、山形県西田川郡温海町の温海温泉である。嘉祥二年（八四九）温海岳鳴動の際に温海川中に湧出したのが起源といい、今も河底が源泉の一つとなっている。鎌倉時代後期に湯治場となり、温泉地の整備は江戸時代以後である。江戸時代中期には四三軒の宿があつた。泉質は含有塩石膏硫化水素泉。リューマチ性疾患・神経痛、水銀鉛などの慢性中毒症、糖尿病などに効用があるとされる。かつては近隣の農民や漁民の湯治場で、現在も熊野神社下の道路で朝市が立つ。

三段目⑧「うちみせんき 米沢湯澤湯」は、山形県米沢市関根の湯の沢温泉である。源義経の家来源八兵衛広綱の下男が羽黒川上流関根地区の山中で、十数匹の猿が湯を浴びていたのを見て発見したという。胃腸病・湿疹などに効用があるとされる。

四段目②「せんきそうどく 庄内湯ノ濱湯」は、山形県鶴岡市の湯野浜温泉である。天龜年間（一〇五三～一〇五八）に漁夫が亀の湯浴みをみて旧亀の湯が発見されたと伝えられ、湯神として亀を祀る。泉質は竜の湯一号が単純温泉、厚生有限会社源泉

が含塩化土類弱食塩泉。慢性関節リウマチ・座骨神経痛・神経炎・創傷などに効用があるとされる。

四段目⑧「うち身かつけ 最上銀山湯」は、山形県尾花沢市の銀山温泉である。慶長年間（一五九六～一六一五）日本五大銀山のひとつ野辺沢（延沢）銀山の抗夫たちが発見したという。銀山衰退後の寛文十年（一六七〇）銀山新畑村となり、正徳年間（一七一〇～一七二〇）に尾花沢の紅花大尽鈴木清風が湯壺をしつらえ、湯泊場にした。泉質は含食塩硫化水素泉。慢性関節リウマチ・神経痛・神経炎・創傷・痔疾などに効用があるとされる。昭和四十三年国民保養温泉に指定され、国指定史跡の延沢銀山遺跡がある。

四段目⑩「せんきニよし 来沢谷沢ノ湯」は、不明。米沢に谷沢鉦山伝説があり、寛正三年（一四六二）十月に伊達持宗か時の將軍足利義政に黄金三万疋を献じ、その子成宗かまた文明十五年（一四八三）に京の足利義尚に砂金百両を献じたという。しかし豊臣秀吉の命で伊達政宗が仙台に移る折には、坑道を全て埋めてしまったという。盛時には三俣中の沢、高発揚、鼻毛通、大導寺、大坂敷には飯場が作られ、茶屋・酒屋・妓楼が立ち並び、「矢沢千軒」といわれ、不夜城の観を呈したという（『米沢市史』民俗編）。「米沢谷沢ノ湯」は、この伝説と関係があると思われる。

西之方

（一段目）

- | | | |
|----------------|------|--------|
| ①大関「諸病ニよし | 名泉あり | 摂州有馬湯 |
| ②関脇「万病ニよし | | 但馬城ノ崎湯 |
| ③小結「諸病ニよし | | 豫州道後湯 |
| ④前頭「瘡どくニよし | | 加州山中湯 |
| ⑤前頭「しつひぜんニよし | | 肥後阿蘇湯 |
| ⑥前頭「瘡どくニよし | | 豊後濱脇湯 |
| ⑦前頭「諸病ニよし | | 肥前温泉湯 |
| ⑧前頭「うちみきんそうニよし | | 薩摩霧島湯 |
| ⑨前頭「がんびょうひ癖によし | | 豊後別府湯 |
| ⑩前頭「諸病ニよし | | 肥後山家湯 |

（二段目）

- | | |
|------------|--------|
| ①「がん病ニよし | 濃州下良ノ湯 |
| ②「諸病ニよし | 肥後ひな久湯 |
| ③「うちみそうどく | 能州底倉湯 |
| ④「しつひぜんニよし | 備中長府湯 |
| ⑤「万病ニよし | 薩摩硫黄湯 |
| ⑥「まん病ニよし | 紀州田邊湯 |
| ⑦「婦人ニよし | 但馬湯川原湯 |
| ⑧「しつひぜんニよし | 藝州川治湯 |
| ⑨「瘡どくニよし | 紀州大ぜち湯 |

幕末期の「見立番付」

- ⑩「諸病ニよし 加州白山湯」
 ⑪「しつひぜんニよし 伯州徒見湯」
 (三段目)
 ①「ひがん病ニよし 薩摩桜島ノ湯」
 ②「婦人一切 肥前竹尾湯」
 ③「せんしやくよし 石州川村湯」
 ④「しつひぜん 周防山口湯」
 ⑤「てん病ニよし 肥前うるし湯」
 ⑥「瘡どくニよし 越中足倉湯」
 ⑦「づつうニよし 越後塩沢湯」
 ⑧「ひへ性ニよし 相州塔ノ沢湯」
 ⑨「うちみくじき 秋田おやすノ湯」
 ⑩「まん病ニよし 薩摩関外湯」
 ⑪「まん病ニよし 相州宮下湯」
 ⑫「切りきすさうどく 津軽矢立湯」
 (四段目)
 ①「瘡どくニよし 信州湯瀬ノ湯」
 ②「づつうニよし 相州堂ヶ島湯」
 ③「せんきニよし 津軽浅虫湯」
 ④「づつうニよし 仙臺あきう湯」
 ⑤「瘡どくニよし 越後出湯泉」
 ⑥「打身ニよし 最上かみの山湯」

- ⑦「瘡どくニよし 信州浅間湯」
 ⑧「しつひぜん 相州底倉湯」
 ⑨「中風かつけ 上州東老神湯」
 ⑩「いたみ所ニよし 越後田上湯」
 ⑪「諸病ニよし 津軽倉置湯」
 ⑫「瘡どくニよし 能州足の湯」

西之方

一段目①大関「諸病ニよし 名泉あり 摂州有馬湯」は、神戸市の北区、六甲山北麓の標高三三三メートルの地、有馬溪谷沿いにある有馬温泉。草津・道後と並ぶ古来の名湯で畿内最古の温泉である。強食塩泉。

一段目②関脇「万病ニよし 但馬城ノ崎湯」は、兵庫県北部城崎町にある城崎温泉で、円山川の支流大谿川沿いに宿が並ぶ温泉で、養老年間（七一七～七二四）僧道智の発見と伝える。無色・無臭の塩化土類含有食塩泉。

一段目③小結「諸病ニよし 豫州道後湯」は、愛媛県松山市北東部にある道後温泉で、草津・有馬と並ぶ古来の名湯。聖徳太子や山部赤人の道後米浴など古代より知られ、中世には河野氏が温泉館をつくって管理した。江戸時代には松山藩により施設の充実がはかられた。弱アルカリ単純泉。

一段目④前頭「瘡どくニよし 加州山中湯」は、石川県南部、

大聖寺川中流域を占める江沼郡山中町にある山中温泉。古来の名湯で、加賀温泉郷の一つ。含食塩セッコウ泉。

一段目⑤前頭「しつひぜんニよし 肥後阿蘇湯」は熊本県北東部、阿蘇町の阿蘇内牧温泉。世界最大のカルデラと阿蘇山を見渡せる絶景の展望台「大観望」からカルデラの中へ降りた所にある。セッコウ泉。

一段目⑥前頭「瘡どくニよし 豊後濱脇湯」は不明。

一段目⑦前頭「諸病ニよし 肥前温泉湯」は、長崎県の雲仙温泉である。

一段目⑧前頭「うちみきんそうニよし 薩摩霧島湯」は、鹿児島県の霧島温泉。きんそう（金瘡）は刃物による傷のこと。

一段目⑨前頭「がんびょうひ癰によし 豊後別府湯」は、大分県別府温泉である。がんびょうは眼病。

四段目⑥「打身ニよし 最上かみの山湯」は、山形県上山温泉である。長禄二年（一四五八）肥前国杵島郡の僧月秀が、脛（すね）に傷ついた鶴が湯に侵して癒しているのをみて発見したという伝説がある。これに因んで鶴脛温泉ともいう。

『大日本名所舊跡見立相撲』

日本は、自然にめぐまれた国である。山がちな地形と複雑な海岸線は、風光にすぐれた景観を各所につくっている。また、春夏秋冬、日本ほど季節のはっきりした国はないという。その

自然の豊かさに加え、各地に残る伝統的な行事、脈々と受け継がれる伝統工芸品、歴史に彩られた名所旧跡、心やすらぐ古い町並み、湯の里、海の幸、山の幸など、魅力あふれる国なのである。

この見立番付は、上に右横書きで『大日本名所舊跡見立相撲』とある。

行司は、中央にやや太く「東海道」「西海道」が並ぶ。「東海道」の右に小字で「京 御室ノ桜」、「西海道」の左に小字で「京 通天ノ紅葉」とある。

「東海道」は五畿七道の一つ。畿内の東、東山道の南で、主として海に沿う地。伊賀・き伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸の一五カ国の称。「西海道」は五畿七道の一つ。今の九州地方。筑前・筑後・豊前豊後・肥前、肥後・日向・大隅・薩摩および壱岐・対馬の九国二島の称。

「京 御室ノ桜」は、京都市右京区御室（おむろ）にある真言宗御室派の総本山仁和寺（御室御所と称した）、桜の名所である。「京 通天ノ紅葉」は、京都東山区東福寺境内の溪谷洗玉澗に架けられた渡り廊下橋、トウカエデの名木は紅葉の名所である。

頭取は、「越中 立山」「六ヶ国 淀川」「加賀 白山」。立山と白山については『大日本名山高峯見立相撲』の解説、淀川に

大日本名所舊跡規相撲

[illegible]

図5 『大日本名所舊跡見立相撲』

ついでに『大日本國々名高大川角力』の解説を参照されたい。

世話人は、上段に「ミカハ 矢矧ノ橋」「越前 掛合ノ橋」「ミカハ 吉田大橋」「遠州 濱名ノ橋」「越中 富山船橋」の五名橋、その下段に「周防 錦帯橋」「せつつ 長柄ノ橋」「やまと 轟の橋」「山しろ 宇治橋」「あハチ 天の浮橋」の五名橋が並ぶ。

勸進元には、右に「近江 八景」、左に「六ツ 玉川」が並ぶ。近江八景は、三井晚鐘、石山秋月、堅田落雁、粟津晴嵐、矢橋帰帆、比良暮雪、唐崎夜雨、瀬田夕照である。中国の瀟湘八景にならって、琵琶湖周辺の景勝地を八つ選んだ。六ツ玉川については、『大日本國々名高大川角力』の解説を参照されたい。

東之方（一段目）③小結「出羽 象潟」は、秋田県南西部の海岸、由利郡島海山の北西麓にあった潟湖。東西二十町余、南北三十町余で湖畔に円仁の草創した蛸満寺があり、九十九島・八十八潟の景勝の地で松島と並称されたが、文化元年（一八〇四）の地震で地盤が隆起して消失。（歌枕）。

東之方（一段目）⑥前頭「出羽 湯殿山」は山形県中部、月山の西に連なる火山。月山・羽黒山と共に出羽三山の一つ。標高一五〇〇メートル。火口底で炭酸鉄泉を湧出し（湯滝）、酸化鉄が沈殿した岩塊（霊岩）を湯殿山神社として信仰の対象としている。

東之方

（一段目）

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 大関「駿河 富士山」 | ② 関脇「奥州 松島」 |
| ③ 小結「出羽 象潟」 | ④ 前頭「下野 日光山」 |
| ⑤ 前頭「江戸 角田川」 | ⑥ 前頭「出羽 湯殿山」 |
| ⑦ 前頭「大和 吉野桜」 | ⑧ 前頭「摂州 須磨浦」 |
| ⑨ 前頭「奥州 金花山」 | ⑩ 前頭「紀州 那智ノ瀧」 |

（二段目）

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 「いせ 阿漕が浦」 | ② 「大和 釋迦か嶽」 |
| ③ 「大和 瀧田の紅葉」 | ④ 「河内 金剛院」 |
| ⑤ 「武州 武蔵野」 | ⑥ 「紀い 妹背山」 |
| ⑦ 「いせ 二見浦」 | ⑧ 「せつ州 住吉浦」 |
| ⑨ 「いせ 天ノ岩戸」 | ⑩ 「江戸 上野ノ花見」 |
| ⑪ 「するが 三保松原」 | ⑫ 「おはり 鳴海ノ浦」 |
| ⑬ 「紀い 熊野浦」 | ⑭ 「越ぜん 鐘ヶ岬」 |
| ⑮ 「河内 生駒山」 | ⑯ 「さかミ 箱根湖」 |

（三段目）

- | | |
|---------------|--------------|
| ① 「わかさ 渡瀬山」 | ② 「の と 筆のしま」 |
| ③ 「山しろ 宇治」 | ④ 「むつ 名取川」 |
| ⑤ 「するが 田子のうら」 | ⑥ 「あふミ 伊吹山」 |
| ⑦ 「しなの 浅間嶽」 | ⑧ 「あハ 野嶋ヶ崎」 |

幕末期の「見立番付」

⑨「かが 安宅關」	⑩「いせ あふむ石」
⑪「下つけ 殺生石」	⑫「さがミ 由井ヶ濱」
⑬「みかハ ハッ橋」	⑭「しなの 更しな」
⑮「越 中 有磯海」	⑯「わかさ 雲の濱」
⑰「するが 清見潟」	⑱「あふミ 三上山」
(四段目)	
①「やまと 三笠山」	②「つの国 布引瀧」
③「さ ど 金山」	④「か ひ 浅間大鳥居」
⑤「ひ だ 位山」	⑥「き い 加田栗嶋」
⑦「かづさ 日月山」	⑧「み の 養老瀧」
⑨「ミかわ 伊良子崎」	⑩「はりま 舞子濱」
⑪「ゑち前 湯の尾峠」	⑫「さがみ 鶴崎」
⑬「いづミ 信田の森」	⑭「せつつ わくた川」
⑮「やまと 猿沢の池」	⑯「い せ ふたん桜」
⑰「む っ 文字ずり石」	⑱「ひたち みなのか川」
(五段目)	
①「ヲハリ 夜野の里」	②「遠 江 小松の中山」
③「ム ツ 臺の石ぶみ」	④「エチゴ 新がた」
⑤「イ カ 風のもり」	⑥「京 軒ばのむめ」
⑦「むつ しほがまの浦」	⑧「あふみ 醒が井」
⑨「い せ 関のしみづ」	⑩「やまと 天のかぐ山」
⑪「下 野 なたのゝ草」	⑫「む っ 末のまつ山」

西之方

⑬「さがミ 足がら山」	⑭「つの国 岸の姫松」
⑮「山しろ 深草の里」	⑯「山しろ 鳴瀧」
⑰「するが 浮嶋ヶ原」	⑱「さかミ 渕くら山」
(一段目)	
①大関「近江 琵琶ノ海」	②関脇「丹後 天ノ橋立」
③小結「安キ 宮島」	④前頭「さぬき 象頭山」
⑤前頭「日向 霧島ヶ嶽」	⑥前頭「伯州 大仙山」
⑦前頭「紀州 和歌ノ浦」	⑧前頭「播州 室ノ浦」
⑨前頭「播州 高砂ノ浦」	⑩前頭「摂州 一ノ谷」
(二段目)	
①「せつ州 浪華津」	②「京 高雄紅葉」
③「丹 バ 大江山」	④「京 嵯峨野」
⑤「京 嵐山」	⑥「む っ 宮城野」
⑦「あ は 鳴門浦」	⑧「はりま 明石浦」
⑨「京 加茂糺」	⑩「筑ぜん 管崎松原」
⑪「せつつ 浪華江」	⑫「たんご 九世戸」
⑬「なかと 壇ノ浦」	⑭「いなば 稲葉山」
⑮「遠 江 大井川」	⑯「しなの 諏訪海」
(三段目)	
①「江 戸 飛鳥山」	②「すおう 岩国山」

- | | |
|--------------|--------------|
| ③「あはじ 淡路島」 | ④「いづみ 高師濱」 |
| ⑤「いづみ 菊タの渡り」 | ⑥「ひこ あそ山」 |
| ⑦「たじま 雪の白濱」 | ⑧「ひぜん もじが関」 |
| ⑨「あは 磯島松」 | ⑩「遠江 よなきいし」 |
| ⑪「いはミ 扶の里」 | ⑫「おき さかみか岡」 |
| ⑬「さつま 沖のしま」 | ⑭「さぬき 屏風かうら」 |
| ⑮「たしま 琴ひき山」 | ⑯「ひせん 島ばら」 |
| ⑰「ひせん 糸の更山」 | ⑱「備中 二万の郷」 |
- (四段目)
- | | |
|-------------|---------------|
| ①「いき 天の原」 | ②「びつ中 吉備の中山」 |
| ③「いづ 高根」 | ④「つの国 みのをの瀧」 |
| ⑤「たんご 千丈瀧」 | ⑥「さつま 防の津」 |
| ⑦「ひご 八ッ代」 | ⑧「つの国 求女塚」 |
| ⑨「ひぜん 佐用姫松」 | ⑩「みの 寝物がたり」 |
| ⑪「大すみ 桜じま」 | ⑫「ミの 関かはら」 |
| ⑬「いづも 熊の川」 | ⑭「京 廣沢の池」 |
| ⑮「京 しられ桜」 | ⑯「ぶんご 不知火」 |
| ⑰「ちくご 千とせ川」 | ⑱「びんご ともものうら」 |
- (五段目)
- | | |
|-------------|-------------|
| ①「とさ 甲のうら」 | ②「つしま 有明山」 |
| ③「いせ 筆たて山」 | ④「せつつ 野田の花」 |
| ⑤「せつつ 和田の岬」 | ⑥「せつつ 丹生山田」 |

- | | |
|-------------|-------------|
| ⑦「いづみ 出滝紅葉」 | ⑧「つの国 江郷」 |
| ⑨「はりま そなれ松」 | ⑩「はりま 尾上の松」 |
| ⑪「京 大原聖」 | ⑫「いづみ 蟻通し」 |
| ⑬「あふミ 打出山」 | ⑭「しなの 桔梗が原」 |
| ⑮「下ふさ 古戦場」 | ⑯「むつ 安達之鬼塚」 |
| ⑰「つの国 誕生石」 | ⑱「京 畜生塚」 |

『大日本産物相撲』

多くの名産には地名がついている。地名はその産物の品質保証書のようなものである。産物に地名がついているというだけで、客は安心してそれを買求める。地名は一種のブランドだといえるだろう。野菜や果物などの農作物にもブランドがある。生産地名がブランドなのである。また、近海で取れる海産物にまでつけられている。

この見立番付は、相撲番付の「蒙御免」の部分に『大日本産物相撲』とある。その下の行司は、右から「つしま 干牛」「紀州 根来わん」「むつ ぼうだら」「松前 かずの子」「下野日光にしき」「紀州 くまのふし」の六品が並んでいる。「つしま 干牛」は、対馬の牛肉の干物だろう。「紀州 根来わん」は、高野山の僧徒が紀州に移って根来寺を営み、そこで日用のために作った漆器。黒漆塗あるいは黒漆塗の膳碗類で、まだら模様の研ぎ出して雅味がある。「むつ ぼうだら」は棒鱈であ

87

り乾鰯の一種。真鰯を三枚におろして日光に乾かしたものの。干鰯ともいう。「松前 かずの子」は、鰯（かど）の子の意でニシンの卵巣を乾燥または塩漬にした食品。カズノコを子孫繁昌の意にとつて、新年・婚礼等の祝儀に用いる。「下野 日光にしき」は、日光に産する日光塗のことか。春慶塗の一種で地質の堅牢を以て名がある。「紀州 くまのふし」は熊野名産の五倍子（ふし）で、ヌルデの若芽・若葉などに生じた瘤状の虫でタンニンを含み、その粉を既婚女性が歯を黒く染めるお歯黒に用いた。

頭取は、「さど 金銀」「いせ くじら」「明石 たい」「ひだ銀あかがね（銅）」の四名産である。

世話人は、「むつ たか」「とさ さる」「ぶんご 河童」「ゑぞ おっとせい」「つしま うし」「とさ こま」の五つの動物を並べている。「むつ たか」は陸奥の鷹で、鷹狩りに使う鷹で、奥羽の諸大名が將軍家へ献上した。「土佐 さる」はニホンザルのことか、不明。「ぶんご 河童」は、豊後（大分県）には河童が登場する。江戸時代の物産資料として有名な『日本山海名産図会』に「豊後河太郎」という項目に河童の絵もあり、他の物産と同じ扱いになっている。その説明には、「形五、六歳の小児のごとく、総身に毛ありて猿に似て眼するどし。常に浜辺へ出て相撲をとる也。人を恐るることなし（中略）関東にては河童という也」とある。「ゑぞ おっとせい」は蝦夷つま

り北海道のオットセイであるが、食用ではなく毛皮用。「とさ こま」は、土佐（高知県）の駒である。

勸進元は「大阪 川口大湊」。差添人が「同 堂嶋米市」となっている。「大坂は天下の台所」という言葉があるが、日本で一番大きな商業流通都市であった。大坂には、九州、四国、中国、日本海側はもとより、蝦夷地からも物資が集まり、それが大坂の市場でさばかれて、また全国に出荷された。商業流通都市大坂の玄関口が「川口大湊」、すなわち安治川河口の港だった。また、大坂に集まる物資の約四〇パーセント（金額にして）は米であるが、その取引が「堂嶋米市」でおこなわれ、全国の米値段の標準となった。

東之方

（二段目）

- | | |
|--------------|--------------|
| ①大関「いづ 八丈島」 | ②関脇「とさ 鯉節」 |
| ③小結「むさし 江戸紫」 | ④小結「でハ 最上紅花」 |
| ⑤前頭「大和 奈良晒」 | ⑥前頭「紀州 蜜柑」 |
| ⑦前頭「紀州 くじら」 | ⑧前頭「ゑちご 縮布」 |
| ⑨前頭「筑前 博多織」 | ⑩前頭「山しろ 宇治茶」 |
| ⑪前頭「大和 三輪索麵」 | ⑫前頭「越ぜん 奉書」 |
- （二段目）
- | | |
|------------|--------------|
| ①「しなの つむぎ」 | ②「むさし ちゝぶきぬ」 |
|------------|--------------|

幕末期の「見立番付」

③「下つけ ゆふきつむぎ」	④「みの 書院紙」	②③「いはミ よしか半紙」	②④「近江 石ばい」
⑤「せつつはつとりたはこ」	⑥「近江 高宮布」	②⑤「ミかハ よしだばい」	②⑥「つの国 池田すみ」
⑦「奥州 くまのゐ」	⑧「ひぜん いまりやき」		
⑨「いよ あかがね」	⑩「きそ山 ひのき」	(四段目)	
⑪「はりま かちんぞめ」	⑫「びぜん 岡山醬油」	①「大和 ごしよかき」	②「いせ のし」
⑬「あふミ すゐしやう」	⑭「あふミ 伊吹もくさ」	③「ゑん州 有松しぼり」	④「つの国 みなげいし」
⑮「でハ 秋田ぶき」	⑯「大和 よしの川あゆ」	⑤「京 東馬いも」	⑥「大坂 すいたぐわゐ」
⑰「山しろ よとこい」	⑱「あき 廣しまかき」	⑦「江戸 かつばたはこ入」	⑧「江戸 竹やたはこいれ」
⑲「むつ 金花山きんご」	⑲「京 かも川あゆ」	⑨「かハチ 観心寺寒さらし」	⑩「でハ もかみぜんまい」
⑲「京 水な」	⑲「江戸 いまとやき」	⑪「たじま 朝くらさんしよ」	⑫「大坂 しゆんさい」
(三段目)		⑬「あふミ せたしゞみ」	⑭「ゑつ中 ハこう布」
①「あふミ さいでうがき」	②「の と さしさば」	⑮「さぬき ゑんざ」	⑯「かハチ 小山團」
③「とさ からすみ」	④「たんバ くり」	⑰「京 さが竹」	⑱「ゑちご 八ふさうめ」
⑤「むさし あふめじま」	⑥「ひんこたたみのおもて」	⑲「たしま 青といし」	⑲「みかハ 白といし」
⑦「おハリ せとやき」	⑧「ゑち前うすようかみ」	⑲「なら ゆゑんすミ」	⑲「きい とりもち」
⑨「とさ 炭たぎく」	⑩「ひんこ ともの菊酒」	⑲「山しろ ハはたごほう」	⑲「大坂 市岡なすひ」
⑪「みの あゆ」	⑫「ひつ中 小菊はんし」	⑲「江戸 小まつな」	⑲「かハチ 石川山もゝ」
⑬「つの国 ありまのゆ」	⑭「つの国 ありまかこ」	(五段目)	
⑮「しなの そはきり」	⑯「かハチ くつわもち」	①「いつミ さつまいも」	②「たんご いわし」
⑰「かが すけかさ」	⑱「長門 むらさきをり」	③「房州 かつ魚」	④「さつま あハもり」
⑲「いつも うつぶさいのり」	⑲「江戸 にしきゑ」	⑤「いつミ 新田たバこ」	⑥「ひた かちくり」
⑲「ゑちご ハッ目うなき」	⑲「ぶせん 彦山めとき」	⑦「いはミ ごいし」	⑧「近江 あめのうを」
		⑨「ミの 養ろう酒」	⑩「京 東寺くわゐ」

- | | |
|----------------|---------------|
| ⑪「ひんこ 柳こうり」 | ⑫「はりま かなやまい」 |
| ⑬「ゑちこ せんまい」 | ⑭「むつ あいづらう」 |
| ⑮「さかい てつほう」 | ⑯「いつも うに」 |
| ⑰「日光 しそ巻とうがらし」 | ⑱「いせ ひじき」 |
| ⑲「大和 そらまめ」 | ⑳「しなの しやくやく」 |
| ㉑「たんは またゝび」 | ㉒「いが めくすり」 |
| ㉓「近江 小いとぶな」 | ㉔「さかい 田原の矢のね」 |

東之方

一段目①大関「いづ 八丈島」は八丈島そのものが物産ではない。これは「八丈縞」つまり黄八丈のことである。八丈刈安で糸染めした黄色の地に鳶・黒色などの縞格子柄を表した絹織物。本産地は八丈島。

一段目②関脇「とさ 鯉節」は、おろしたカツオの身をゆで、または蒸し、あぶって乾かし、微付を施して日光で乾かしたものの。現代でも一級品の海産物として流通しているが、江戸時代すでにその地位を確立していた。

一段目③小結「むさし 江戸紫」は、武蔵野にゆかりのある紫草を染料とし江戸で染め始めたのでいう染色の名。紫色で藍色の勝ったもの。

一段目④小結「でハ 最上紅花」はキク科の一年草。小アジア・エジプト原産の染料・油料用植物。高さ三〇〜九〇センチ

メートル。夏、紅黄色のアザミ似た頭花をつける。小花は細い筒形。日本には古く中国から入り、江戸時代は出羽国村山郡を中心に栽培。古くは花冠を採集して染料や紅を作った。

一段目⑤前頭「大和 奈良晒」は、慶長年間（一五九六〜一六一五）以来、奈良地方から産出した麻布。経（たて）緯（よこ）とも苧麻または大麻で織った粗い生平（きびら）を漂白したもの。武士の袴（かみしも）、町人の礼服などに用いられ、高級布としての地位を確立。最盛期は十七世紀後半。その後、越後上布におされて衰退し、明治維新後最大顧客の武家をもって没落した。

一段目⑥前頭「紀州 蜜柑」は、ミカンの一種。中国原産。枝の多い低木で、葉は小形。果実も小さく、種子が多い。最も古くから暖地に栽培され、寛永年間（一六二四〜一六四四）に紀州から江戸に出荷され、長く賞味されたが、温州（うんしゅう）蜜柑の普及によって圧倒された。

一段目⑦前頭「紀州 くじら」は、四国と紀伊半島の間紀州水道沿岸でかつて大規模な捕鯨をした。

一段目⑧前頭「えちご 縮布」は、緯糸（よこいと）にやや強い撚糸（よりいと）を用いて織り、のち、練って皺寄せをして布面全体に細かい皺を生じさせた織物。麻・木綿・絹などさまざまな種類がある。ちぢみ。

一段目⑨前頭「筑前 博多織」は、細い経糸（たていと）が

やや太い緯糸（よこいと）を包みこみ、表面には経糸ばかりが出ていて、横畝（よこうね）が際立って見える点が特徴。練糸を使った平織物で、地合（じあい）が硬く、光沢がある。

一段目⑩前頭「山しろ 宇治茶」は、京都府南部の宇治地方から産出する茶。室町時代から茶道で賞美。

一段目⑪前頭「大和 三輪索麵」は、奈良県桜井市の一地区に古くから大神（おおみわ）神社の鳥居前町、市場町、宿場町としてにぎわった三輪があり、三輪山麓に古い山辺の道が通じている。特産に三輪索麵（そうめん）がある。

一段目⑫前頭「越ぜん 奉書」は、福井県今立（いまだて）町を中心とした越前各地で産出してきた越前紙で、奉書紙は特に優秀な上質和紙である。

二段目⑬「で ハ 秋田ぶき」は、出羽国秋田に産するフキの一品種。非常に大きく、葉身の周りは三メートル、葉柄の高さは約二メートルに達する。茎は砂糖漬とし、葉は陰干しにして襖・屏風にはる。

四段目⑭「でハ もかみぜんまい」は、出羽国特産の最上薇（ぜんまい）。薇（ぜんまい）は、山間部谷沿いに大群落を作るゼンマイ科の夏緑性シダ。春早く普通の葉の出る前に、胞子囊だけの葉（胞子葉）が出る。巻いた若葉を干し、食用とする。

西之方

（一段目）

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 大関「京 羽二重」 | ② 関脇「奥州 松前昆布」 |
| ③ 小結「阿波 藍玉」 | ④ 小結「丹ご 縮緬」 |
| ⑤ 前頭「さつま 黒砂糖」 | ⑥ 前頭「江戸 浅草海苔」 |
| ⑦ 前頭「せつ津 伊丹酒」 | ⑧ 前頭「さつま 上布」 |
| ⑨ 前頭「かが 撰糸絹」 | ⑩ 前頭「大和 吉野葛」 |
| ⑪ 前頭「京 水浅黄」 | ⑫ 前頭「備中 大鷹檀紙」 |

（二段目）

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 「ぶんこ 小くらしま」 | ② 「かが 小松はぶたゑ」 |
| ③ 「かひ ぐんないしま」 | ④ 「すはう 岩国はんし」 |
| ⑤ 「さつま 国分たはこ」 | ⑥ 「さつま はせを布」 |
| ⑦ 「さつま ひげんしんゐ」 | ⑧ 「ひぜん やきもの」 |
| ⑨ 「はりま くらがね」 | ⑩ 「ひご すみせんじのり」 |
| ⑪ 「とき ぼばしら」 | ⑫ 「むつ しのがすり」 |
| ⑬ 「なんぶ こはく」 | ⑭ 「大和 よしの人しん」 |
| ⑮ 「おはり 大こん」 | ⑯ 「しま しんじゆかい」 |
| ⑰ 「近江 源五郎ふな」 | ⑱ 「いせ ゑひ」 |
| ⑲ 「越ぜん 生たら」 | ⑳ 「近江 ゑち川もろひ」 |
| ㉑ 「大坂 天王寺干蕪」 | ㉒ 「遠江 はまななつとう」 |

（三段目）

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 「みの つるしかき」 | ② 「ひぜん とうくらけ」 |
|--------------|---------------|

- ③「ひご 八しろみかん」 ④「かハチ もめん」
 ⑤「はりま あこうじま」 ⑥「京 あわたやき」
 ⑦「きい くまのすみ」 ⑧「江戸 すみ吉きせる」
 ⑨「江戸 むらたきせる」 ⑩「さかい へのまつり」
 ⑪「南部 あられさけ」 ⑫「あふみ いひだこ」
 ⑬「いよ 奉書かみ」 ⑭「するが 竹さいく」
 ⑮「あは そうめん」 ⑯「あふみ 水口矢の根」
 ⑰「きい からかさ」 ⑱「近江 高しますゝり」
 ⑲「下ふさ かさいのり」 ⑳「きい 花いくわ」
 ㉑「さかミさんしやうを」 ㉒「さかミほしくたりうめ」
 ㉓「すハう 山しろ半紙」 ㉔「江戸 はきもの」
 ㉕「かハチ よこ山白炭」 ㉖「かひ かいれまふどう」
- (四段目)
- ①「ぶんど しぼり」 ②「京 白川石」
 ③「大坂 てんま大こん」 ④「大坂 きつかんひやう」
 ⑤「江戸 なるこうり」 ⑥「なかと めんろう」
 ⑦「かハチ道明寺ほしいひ」 ⑧「たじま ほしわらび」
 ⑨「京 くらま木のめづけ」 ⑩「あハ なるとわかめ」
 ⑪「いき あやめの」 ⑫「いよ すだれ」
 ⑬「山しろ 京人形」 ⑭「かうや 万年草」
 ⑮「ふんこ 火うち」 ⑯「たしま わらびなハ」
 ⑰「さぬき いしはまくり」 ⑱「あかし かますこ」

- ⑰「大坂 黒門白うり」 ⑱「かハチ 石川いも」
 ⑲「大坂 宮前大こん」 ㉒「大坂 いつはら松たけ」
 ㉓「つしま 矢くら小たい」 ㉔「ちく前 ねりさけ」
 ㉕「うぢ こくろかき」 ㉖「あハ ひうちいし」
- (五段目)
- ①「大坂 川口はせ」 ②「大坂 なんはんじん」
 ③「近江 こめ」 ④「ゑちご らうそく」
 ⑤「さぬき このわた」 ⑥「ゑち前 みくにだら」
 ⑦「京 まつ山小うめ」 ⑧「いせ くわなはまくり」
 ⑨「さがみ小田はらしはから」 ⑩「のと さしさば」
 ⑪「いづミ 日根の小豆」 ⑫「近江 なし」
 ⑬「ぶんこ はんきり」 ⑭「いつも わかめ」
 ⑮「さど さいしん」 ⑯「たじま あかね」
 ⑰「石見 白みつ」 ⑱「ぶんこ あさらし」
 ⑲「いっ うんひし」 ⑳「むさし こしろやもち」
 ㉑「遠州 はなこさ」 ㉒「かがみの」
 ㉓「しなの 小人じん」 ㉔「奥州 かんてん」

西之方

一段目①大関「京 羽二重」は、品質の優れた京都と堺産の
 だけを羽二重と呼び、それ以外の産地のは選糸と呼んだ。東西
 とも、代表的な絹織物である。

一段目②関脇「松前 昆布」は、現代でも一級品の海産物として流通している。

一段目③小結「阿波 藍玉」は、タデ科のアイの葉や茎を原料にして発酵させたもので、天然藍の原料になる。阿波国つまり徳島県が大産地だった。

一段目④小結「丹ご 縮緬」は、享保年間の一七二〇年頃には生産が始まっていた京都府北部、丹後地方の名産である。品質が優れていたばかりか生産量も多く、ただ丹後というだけで丹後縮緬の意味になったほど有名だった。

一段目⑤前頭「さつま 黒砂糖」は、まだ精製していない茶褐色の砂糖。甘蔗汁をしぼって鍋で煮詰めたままのもの。

一段目⑥前頭「江戸 浅草海苔」は、隅田川下流の浅草で養殖したからいう。紅藻類の海藻を冬に採集、乾かして食用とした。

一段目⑦前頭「せつ津 伊丹酒」は、江戸初期からの最上酒。伊丹諸白ともいう。

一段目⑧前頭「さつま 上布」は、上等の麻布。細い麻糸を用いて平織りにしたもので、多く夏の衣服に用いた。

一段目⑨前頭「かが 撰糸絹」は、加賀国に産する生絹。羽二重に似て、緯糸（よこいと）が太く、多くは染めて裏地に用いた。

一段目⑩前頭「大和 吉野葛」は、奈良県吉野から産出する

上質の葛粉。

一段目⑪前頭「京 水浅黄」は、薄いあざぎ色の編織物。

一段目⑫前頭「備中 大鷹檀紙」の大鷹は高の当字であり、和紙の一種。厚手で白く縮緬のような皺のある紙。その大きさによって大高・中高・小高の別がある。

『大日本神社仏閣参詣所角力』

頭取に「デハ 鳥海山」、後見に「デハ 羽黒山」、西之方三段目九枚目に「てハ 山寺」が出ている。「デハ 鳥海山」と「デハ 羽黒山」については、『大日本名山高峰見立相撲』の項を参照されたい。「てハ 山寺」は、山形市北東部、宝珠山の中腹にある天台宗の立石寺。貞観二年（八六〇）円仁（慈覚大師）の開創といわれ、比叡山根本中堂の常灯明を分灯したという。鎌倉時代には関東御祈禱所となり、十三世紀中ごろ禅宗に改宗させられたが、南北朝時代に天台宗に復帰した。戦国時代は伊達氏に味方したため、天童氏によって一山焼打ちにあったが、山形藩最上氏の保護や幕府の朱印を得て栄えた。芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蟬の声」で有名。本尊薬師如来座像や根本中堂は国の重要文化財。

『大日本持丸長者鑑』

西之方前頭二枚目に「テワ 本間主膳」が出ているが、日本

大日本神社佛閣叅詣所勸

[illegible]

図7 『大日本神社佛閣参詣所角力』

95

一の大地主となった山形県酒田の本間家である。本間家は、相模国本間村の出自で新潟を経て永禄年間（一五五八～一五七〇）酒田湊に居住したという。元禄年間（二六八八～一七〇四）初頭、本町に新潟屋を開店した久四郎原光を初代としている。その後、酒田三十六人衆となり、商業・金融・地主経営や大名貸しで出羽国一の豪商となり、「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に」とうたわれた。

『海内正風誹家鏡』

この番付については、出羽文化ネットワーク稲州研究編集委員会編『稲沢の俳人工藤稲州』（出羽文化ネットワーク 一九九九年七月発行）に全文紹介解説しているので、同書を参照されたい。

中央四段目の左端の「江戸 一具」は、山形県村山市楯岡出身の一具庵一具（？～一八五三）。本姓は安達とも高梨ともいわれ、夢南・断橋・不幻果・無庵・十夢・一具庵・仏虫などとも号した。楯岡本覚寺に入って得度し、磐城（福島県）専称寺良孔上人に師事し、福島の大円寺住職となった。俳諧は松窓乙二に学び、俳諧行脚を志し、寺を譲り、江戸中橋北槇町に居して、俳諧の道に入った。その影響を受けた俳人は、半沢二丘（漆山）、寒河江晓花、高橋古翠（川西町西大塚）、楨五鳳（谷地）など多数にのぼる。

東之方三段目五枚目「出羽 二丘」は、出羽国村山郡漆山村の素封家半沢久次郎（一七七〇～一八五六）。幼名亀吉、長じて久次郎。俳号を桃皐亭二丘と称す。養子の亀治（長じて久治郎、俳号羽人）とともに公共のために尽くして藩主秋元氏から名字帯刀を許された。俳歴は初め酒田の常世田長翠、のち宮城県白石の岩間乙二に学んだ。楯岡出身の安達一具と同門。晩年は豊かな資力で多くの文人墨客のパトロンとなり地方俳壇を後援した。山寺立石寺にある「閑さや」の芭蕉句碑（嘉永六年建立）は一具の筆、二丘の建立である。

同三段目十一枚目「出羽 稲州」は、山形県西川町大字吉川の素封家工藤三九郎の五代目。天明七年（一七八七）生まれ、安政三年（一八五六）八月二十七日七十歳で没。俳号を稲州、葎茶園・鶴寿亭と称す。東之方二段目五枚目「出羽 玄子」と十二枚目「出羽 御風」は秋田の俳人と思われるが、不明。

四 むすびにかえて

江戸・京・大坂の三都では非常に限定された素材を見立番付にしている。見立番付の細分化も、人びとの関心の多様化と無関係ではない。また、時代が下ると、地方色の豊かな番付が各地で作られ、刷り吻文化が地方においても活発になって行くことを示している。見立番付の発展は、江戸時代の印刷・出版文化の隆盛や、庶民教育の普及による文字文化の形成に支えられ

方之西										方之東										
前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	
雲	下	雲	江	東	尾	京	尾	肥	撥	同	同	同	同	同	同	同	同	同	江	
雲	下	雲	江	東	尾	京	尾	肥	撥	同	同	同	同	同	同	同	同	同	江	
田	江	可	梅	壯	黃	梅	而	悠	鼎	有	祖	惟	得	西	為	見	抱	松	卓	
鳳	乃	大	堂	參	山	通	后	々	左	節	鄉	草	蕪	馬	山	外	儀	什	郎	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
奧會同下江島同江同雲江或相雲江與																				
州陸	福	戸	州	戸	水	戸	州	模	戸	江	丁	近	奥	出	相	江	島	日	雲	
州陸	福	戸	州	戸	水	戸	州	模	戸	江	丁	近	奥	出	相	江	島	日	雲	
佛三交之白心念水波雲氷丘櫻紫荷龍																				
秘魂木柱起阿	壺	節	五	渡	堂	了	九	湖	梅	九	下	以	上	下	上	下	上	下	上	
江	三	山	近	京	江	三	山	近	京	江	三	山	近	京	江	三	山	近	京	
同塞茂壯親石																				
小	馬	確	鷲	山	外	寺	同	同	同	江	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
求推羽山丁遷																				
算陰入外知流																				
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一逸孤由																				
具淵月誓																				

図9 『海内正風誹家鏡』

ていたのである。

山形大学附属博物館に『最上名所名産名物番附』（版面たて三五センチメートル・よこ二九センチメートル）がある。元治元年（一八六四）十月、恵美酒講（えびすこう、恵美酒は恵比須の当字）にむけて山形の田中岱山堂が発行した見立番付である。彫刻は守文とある。恵比須講とは、旧暦十月二十日商人仲間が講宿に集まり商売繁昌を祈ったが、やがて講とは関係なく取引先を供応し、恵比須神に感謝して誓文払い、えびす講の売出しをするようになった。『最上名所名産名物番附』は、山形

のえびす講売出しのサービスに配布されたものであろう。

この見立番付についての解説は後日に期し、翻字のみを掲げて本稿のむすびとしたい。

『最上名所名産名物番附』

（東之方張出）

「常念寺勅額 國分寺薬師へ四月七日夜青野山ヨリ十二神燈
上ル 小白川天満宮 宝幢寺大黒天 達麻寺生達摩 山形
三十三所観世音 湯殿山芭蕉碑」

（中央に）「蒙御免 次第不同 最上名所名産名物」

行司

（一段目）

「光禪寺義光公墓」「最上御朱印」「小橋町太神宮」「湯殿山」

「黒沢松原米」「最上川ノ魚」

（二段目）

「幸中銅山」「十日町市神」「霞ヶ御城」「風間砥石山」「館木
鉛山」

（三段目）

「大日寺」「慈恩寺」「光明寺」「六ッ楯八幡宮」「宝幢寺」

「本道寺」「日月寺」

（四段目）

世話人

「近林恵美酒講袋入」「丸谷恵美酒講袋入」「最上川薩舟」

「紅久庭ノ松梅」「丸万千年山見通シ松」「此外最上三十三観

世音・神社仏閣・温泉所々ニ数多御座候」

勸進元

「八幡武射タメシ」「宮ノ穀タメシ」「専称寺」「山形綿札賣
買」「山形丸本西肴問屋」

差添

「片谷地円壽寺御堂」「滝山西行ノ笠石」「大日ノなかつち石」
「寺津川岸」「目早四十五人組」「山形湯殿山行者宿」

（西之方張出）

「元治元甲子冬十月恵美酒講ニ而出之 山形 田中岱山堂

善正 彫刻守文（花押）」

図10 『最上名所名産名物番附』

東之方

(一段目)

- | | |
|---------------|-------------|
| ①「月山」 | ②「最上川」 |
| ③「大沼ノ浮島」 | ④「山寺」 |
| ⑤「水晶山」 | ⑥「鳥海月山兩所宮」 |
| ⑦「日本一社 若木大権現」 | ⑧「釈迦堂生釈迦」 |
| ⑨「白岩川ノ砂金」 | ⑩「同 硯橋」 |
| ⑪「千年山阿古屋松」 | ⑫「万松寺實方中將墓」 |
| ⑬「蟹沢妙見寺矢ノ根石」 | ⑭「銀山岩中ノ貝」 |
| ⑮「山寺奥ノ石橋」 | |
- (二段目)
- | | |
|------------|------------|
| ①「山形諏訪大明神」 | ②「八聖山不動」 |
| ③「三宝岡生如来」 | ④「万日ノ生如来」 |
| ⑤「平塩ノ熊野山」 | ⑥「常念寺ノ不動」 |
| ⑦「宝沢炭焼藤太」 | ⑧「薬師ノ鴻池」 |
| ⑨「山寺ノ天拘岩」 | ⑩「同 奥ノ鸚鵡岩」 |
| ⑪「宮ノ内片目魚」 | ⑫「芦沢ノ土團子」 |
| ⑬「万松寺阿古屋姫」 | ⑭「若松山ノ飛松」 |
| ⑮「岩袋ノ團子石」 | ⑯「最上川ノ御殿磐」 |
| ⑰「千年山ノ恥シ川」 | ⑱「霞城ノ雪見石」 |
| ⑲「慈恩寺馬ノ繪馬」 | ⑳「薬師ノ植木市」 |
| ㉑「最上ノ踊柴燈」 | |

(三段目)

- | | |
|------------|-------------|
| ①「行蔵院熊野山」 | ②「山形城下ノ井戸水」 |
| ③「山ノ辺ノ八幡」 | ④「境ノ虚空藏」 |
| ⑤「深沢ノ不動」 | ⑥「富並ノ鬼兜城」 |
| ⑦「宮ノ内金井ノ庄」 | ⑧「長崎文蔵ノ松」 |
| ⑨「宝幢寺犬御朱印」 | ⑩「天童ノ童子ノ宮」 |
| ⑪「同 喜太郎狐」 | ⑫「花立川原」 |
| ⑬「三ノ丸霊石」 | ⑭「千年山齒黒岩」 |
| ⑮「唐松ノ舞臺」 | ⑯「小白川西光寺庭」 |
| ⑰「十日町歌棧橋」 | ⑱「六日町小豆地藏」 |
| ⑲「若木村ノ文珠」 | ⑳「寒河江ノ八幡」 |
| ㉑「林崎ノ日本一社」 | ㉒「小白川天窓勝地藏」 |
| ㉓「山家五百羅漢」 | |
- (四段目)
- | | |
|------------|--------------|
| ①「三ノ丸子ノ権現」 | ②「獅子ノ口明神」 |
| ③「羽生村ノデゾウ」 | ④「山ノ辺御十八ヤ」 |
| ⑤「ドヂヤウ観世音」 | ⑥「六日町山刀切デゾウ」 |
| ⑦「宝ドウ寺聖天」 | ⑧「光明寺門ノアタゴ」 |
| ⑨「鳥居原石トリキ」 | ⑩「元木ノ石トリキ」 |
| ⑪「馬見ヶ崎ノ大石」 | ⑫「八鍬ノ父母子スギ」 |
| ⑬「平塩ノヨバリ杉」 | ⑭「大原ノハイ竜松」 |
| ⑮「新山ノ大ケヤキ」 | ⑯「寒河江ノ笠マツ」 |

幕末期の「見立番付」

- ①「宝ドウ寺ノモミチ」
②「専称寺サカサ竹」
③「小清水ノモミノ木」
④「ハ・盃山見通シニワ」
⑤「塗師町将基所」

(五段目)

- ①「長源寺町時ノカネ」
②「妙見寺生シシ」
③「天正寺ノ五リン」
④「宮町ススメ坂」
⑤「山形龍門寺ノニハ」
⑥「専称寺ノ力士」
⑦「アタゴノ盃ヤマ」
⑧「塩原シホノ井戸」
⑨「ヤンベノサクラ松」
⑩「和合ノ狐ニハ」
⑪「沢畑八十八ヶ所」
⑫「宝沢マタタヒ清水」
⑬「山形ノ一貫清水」

(六段目)

- ①「光禅寺鳥ノロウカ」
②「楯岡ノキリ通シ」

- ①「成就院ノ袖フリ松」
②「橘屋ノ朝鮮ヒバ」
③「松坂屋ノツガ松」
④「櫻田コウゲ寺見晴」

- ①「本木伊八ノボタン」
②「慈恩寺三重トウ」
③「長谷堂ノ風アナ」
④「万日ケイセイ手拭石」
⑤「同 ケイセ川」
⑥「同 門ノハシラ」
⑦「宮町天狗ハシ」
⑧「片谷地カクラ石」
⑨「山形山吉ニハノマツ」
⑩「左沢ナラノギ測」
⑪「安ヤウ寺姿ミ水」
⑫「山ノ辺弘法スイ」
⑬「笹セギノ雨乞石」

- ①「稲荷口ノナリツカ」
②「貫津ミカノシ松」

西之方

(二段目)

- ①「慈光寺ノ血フヂ」
②「光明寺バケマツ」
③「慈光寺門戸ナシ」
④「薬師寺林鳥ノスナシ」
⑤「正円寺ブドウ種ナシ」
⑥「妙見寺村ニカベナシ」
⑦「尾花沢ノ雪」
⑧「谷地八月日市」
⑨「山形 宮ノ山門」

- ①「南ダテフドウ水」
②「常念書院雨戸ナシ」
③「宝トウ寺門前草ナシ」
④「須川ニ魚ナシ」
⑤「小白川ニ井戸ナシ」
⑥「小橋町一軒蚊ナシ」
⑦「左沢八月日市」
⑧「船町川岸」

(二段目)

- ①「最上ノ紅花」
②「雁喰大豆」
③「新庄ノ馬」
④「最上ノ漆」
⑤「同 小豆」
⑥「同 板蠟」
⑦「上ノ山麻布紙」
⑧「千年山松茸」

- ①「同 青苧」
②「高湯ノ湯ノ花」
③「同 鷹」
④「同 黒柿」
⑤「同 葉藍」
⑥「山形銅屋細工」
⑦「関山煙草」

- ①「山形五月幟り」
②「同 餅」

- ①「同 花染木綿」
②「同 絹糸」

- ⑤「同 寄セ豆腐」
⑦「同 鰻大蒲焼」
⑨「同 紙合羽」
⑪「同 洪紙團扇」
⑬「新庄綾織」
⑮「山形一山名酒正宗」
⑰「山ノ辺蚊屋地」
⑲「宝沢炭薪」
⑳「関山火縄」
- ⑥「同 熨斗梅」
⑧「同 湯殿山表具」
⑩「同 松坂屋ナイラ葉」
⑫「最上包ミ御札」
⑭「同 槻玉杵」
⑯「谷地草履表」
⑰「上ノ山炭」
⑳「山形大△千五十集店」

(三段目)

- ①「山形松坂屋順ノ湯」
③「同 懷中蠟燭」
⑤「同 小姓町角吉水油」
⑦「同 七日町足孫下駄足駄」
⑨「同 横町皿屋五色豆糖」
⑪「同 札ノ辻畠ヤ切山椒」
⑬「同 横町皿屋大福帳」
⑮「同 蔓細工」
⑰「山家印役ノ糍」
⑲「金山葛粉」
㉑「堀内漬萩」
- ②「同 繪蠟燭」
④「同 八日町淀屋白酒」
⑥「同 七日町水口屋源氏香」
⑧「同 七日町晒水飴」
⑩「同 旅籠町玄丹針」
⑫「同 銀町金山寺ユベシ」
⑭「同 八日町稲庭ヤ温麵」
⑯「同 仏壇(壇)細工」
⑰「同 双月和合ノ紙」
⑲「高湯 氷豆腐」
㉒「山形十日町北條書物店」

- ①「尾花沢カラミ大根」
③「小国ノワラビ干」
⑤「同 木綿シボリ」
⑦「最上川ノナマズ」
⑨「同 ジュンサイ」
⑪「同 大クリ」
⑬「白岩アラレ」
⑮「瀬見川ノアユ」
⑰「貫津ノカモ」
⑲「悪戸赤苧シマ」
㉑「川原子紅花フクロ」
㉓「高湯ソバ」
㉕「大堀ソウメン」
㉗「天童イガモチ」
- ②「岩根沢鹿茸」
④「七浦藤六ウリ」
⑥「サラヌマ西瓜」
⑧「畑谷ノエビ」
⑩「最上ブドウ」
⑫「同 ムキ胡桃」
⑭「ハッ沼大フナ」
⑯「羽入川ノサケ」
⑰「観音寺竹ノ子」
⑲「悪戸ハカマ地」
㉒「光明寺手アソビ」
㉔「半郷アワモリ」
㉖「上ノ山センヘイ」
- (五段目)
- ①「左沢障子ヤクラ」
③「法華町ノミ」
⑤「平清水セトモノ」
⑦「六日町スリハチ」
⑨「同 初市ノモリアノ」
⑪「同 張スキ印ロウ」
⑬「専称寺ノアメ馬」
- ②「谷柏タタミオモテ」
④「山形大城屋 金龍丹」
⑥「岩波ノセトモノ」
⑧「山形村居神應丸」
⑩「同 小橋ノ茜ノタスキ」
⑫「同 綿ノタネキリ」
⑭「新庄ノ氷モチ」

(四段目)

幕末期の「見立番付」

- | | |
|--------------|--------------|
| ⑮ 「同 舟形ササマキ」 | ⑮ 「同 舟形ササマキ」 |
| ⑮ 「山ノ辺ノ木綿イト」 | ⑮ 「山ノ辺ノ木綿イト」 |
| ⑮ 「窪手ノ白ツチ」 | ⑮ 「窪手ノ白ツチ」 |
| ⑮ 「片谷地ゴザ」 | ⑮ 「片谷地ゴザ」 |
| ⑮ 「上ノ山四谷甘サケ」 | ⑮ 「上ノ山四谷甘サケ」 |
| ⑮ 「山形ナマツ蒲ヤキ」 | ⑮ 「山形ナマツ蒲ヤキ」 |
| (六段目) | |
| ① 「吉原 モモ」 | ① 「吉原 モモ」 |
| ③ 「谷地 ナシ」 | ③ 「谷地 ナシ」 |
| ⑤ 「吉ノ宿芋カラ」 | ⑤ 「吉ノ宿芋カラ」 |
| ⑦ 「大ノ目白ヒゲ」 | ⑦ 「大ノ目白ヒゲ」 |
| ⑨ 「前田大コン」 | ⑨ 「前田大コン」 |
| ⑪ 「宮町 ネギ」 | ⑪ 「宮町 ネギ」 |
| ⑬ 「鉄炮町 ナ」 | ⑬ 「鉄炮町 ナ」 |
| ⑮ 「肘折 ウド干」 | ⑮ 「肘折 ウド干」 |
| ⑮ 「江マタノ猿サケ」 | ⑮ 「江マタノ猿サケ」 |
| ⑮ 「同 木綿真田」 | ⑮ 「同 木綿真田」 |
| ⑮ 「同 榎嶺札」 | ⑮ 「同 榎嶺札」 |
| ⑮ 「谷地白セツコウ」 | ⑮ 「谷地白セツコウ」 |
| ⑮ 「熊ノ目ノ赤ツチ」 | ⑮ 「熊ノ目ノ赤ツチ」 |
| ⑮ 「南タテノ花ムシロ」 | ⑮ 「南タテノ花ムシロ」 |
| ⑮ 「山ノ辺北目カキ」 | ⑮ 「山ノ辺北目カキ」 |
| ⑮ 「牛房野ノ附子」 | ⑮ 「牛房野ノ附子」 |
| ② 「二日町ムメ」 | ② 「二日町ムメ」 |
| ④ 「土坂午(牛)ボ」 | ④ 「土坂午(牛)ボ」 |
| ⑥ 「神尾アサツキ」 | ⑥ 「神尾アサツキ」 |
| ⑧ 「八森大コン」 | ⑧ 「八森大コン」 |
| ⑩ 「落合芋ナスビ」 | ⑩ 「落合芋ナスビ」 |
| ⑫ 「下条 セリ」 | ⑫ 「下条 セリ」 |
| ⑭ 「左沢ナメコヅケ」 | ⑭ 「左沢ナメコヅケ」 |
| ⑮ 「ナラ沢ネギ」 | ⑮ 「ナラ沢ネギ」 |
| ⑮ 「山形 出合傘」 | ⑮ 「山形 出合傘」 |
| ⑮ 「同 麻裏草履」 | ⑮ 「同 麻裏草履」 |
| ⑮ 「山形ノ塩札」 | ⑮ 「山形ノ塩札」 |

参考文献

- 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第十一卷(吉川弘文館)
 芳賀 登『民衆史の創造』(日本放送出版協会)
 芳賀 登・林 英夫編『番付集成』上・下(柏書房)
 石川英輔『大江戸番付づくし』(実業之日本社)
 『角川日本地名大辞典』6 山形県
 『山形県の地名』(平凡社)
 新村出編『広辞苑』(岩波書店)